

**TOHO GAKUEN
SCHOOL OF MUSIC
2024**

音と向き合うための 学び舎

よい音を識るということ。

よい音を識るために、音をよく聴くということ。

音をよく聴き、響きの中に豊かな表情を見つけること。

この新たな学び舎は、

一流の音楽家に必要な素養を磨くための、

大きなひとつの楽器である。

自らの手元だけではなく、空間全体を使って

自分の音と向き合ってほしい。

目次	
プロローグ	3
学長インタビュー	8
桐朋の教育理念	10
学びの三本柱	
鍛える（ソルフェージュ、音楽理論）	11
究める（専攻実技、副専攻、選択副科）	12
超える（オーケストラ、室内楽・二重奏ソナタ）	13
桐朋の学び	
ピアノ専攻	16
弦楽器専攻	17
管楽器専攻	18
打楽器専攻	19
ハープ専攻	20
古楽器専攻	21
声楽専攻	22
指揮専攻	23
作曲専攻	24
音楽学専攻	25
カリキュラム	26
指導陣	28
特別レッスン	32
桐朋生のキャンパスライフ	
桐朋生の1日	35
活躍する桐朋生	38
コンサートスケジュール	40
キャンパスガイド	42
桐朋生の進路・進学	
高校卒業後の進路	45
大学卒業後の進路	46
留学について	47
大学院への進学	48
特待生・奨学金制度	49
入試情報	50
アクセスマップ	52

特別な場所で 日々、研鑽を積む

教育の場としてのホールをつくりたい。

その思いを形にした桐朋学園宗次ホールで、
ここでしかできない教育が明日の音楽家たちを育みます。



1.オーケストラ基礎：高3弦楽器と大学生 2.弦楽オーケストラⅠ：高1弦楽器 3.ウインドオーケストラ：管打ハープ 4.ピアノ室内楽：高1ピアノ

桐朋学園宗次ホールは、内外の演奏家によるコンサートを行うだけでなく、高校や大学の実技試験、授業などを行う教育の場でもあります。

ホールで行われている授業は、「ピアノ室内楽」（高校1年：ピアノ専門）、「ピアノ演奏法」（大学：ピアノ専攻）、「弦楽オーケストラⅠ」「弦楽オーケストラⅡ」（高校1、2年：

弦楽器専門）、「オーケストラ基礎」（高校3年：弦楽器専門、大学：弦・管・打・ハープ専攻）、「オーケストラ中級」「オーケストラ上級」（大学：弦・管・打・ハープ専攻）、「ウインドオーケストラ」（高校：管・打・ハープ専門の指定された生徒、大学：管・打・ハープ専攻）です。これらの授業では、様々な曲を取

り上げて練習しながら、アンサンブルの技術やリハーサルの方法を実践的に修得していきます。

コンサートホールは、音楽の演奏に適した響きとなるよう音響設計されています。ホールでオーケストラや室内楽などのような授業を行うことで、響きの少ない教室では気付きにくい、空間を意識した音づくりを学ぶことがで

きるのです。

響きの良いホールで演奏すると、音は「出すもの」ではなく「響かせるもの」とであると、改めて感じます。空間をどのように使って響きをつくるのか。どのように音を出せば、ホールの空間が応えてくれるのか。美しい響きをつくるために、どのように体をコントロールすればよいのか。ホールは、実技

教育の最終的な現場といえます。

欧米のオーケストラには、しばしば本拠地となるホールがあります。ホールがオーケストラを育て、個性を花開かせます。桐朋学園宗次ホールが、桐朋生を個性豊かな優れた音楽家へと育ててくれるのです。

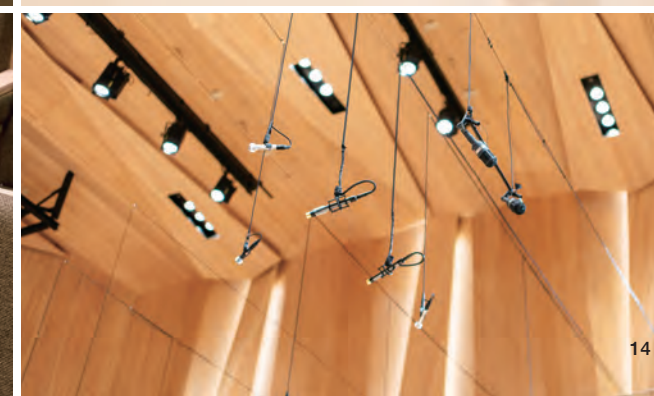
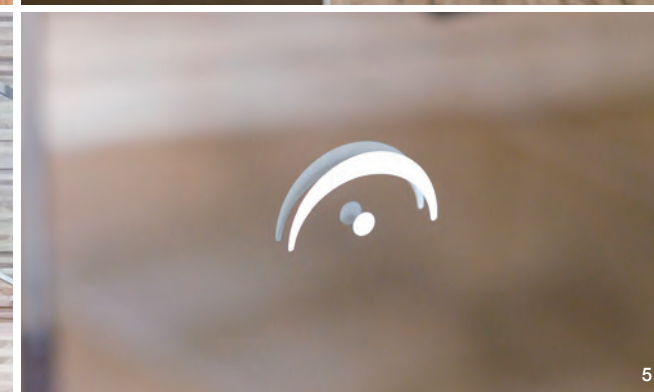
教室やレッスン室の並ぶ通路の一角に、桐朋学園宗次ホールの扉があ

ります。著名な音楽家のコンサートがあれば、先刻までレッスン室にいた桐朋生が、楽器をロッカーにしまって聴きに来ることもあるでしょう。その同じホールが、音楽家として大切なことを桐朋生たちに経験させてくれます。彼らがいつか、後輩たちに演奏を聴かせる立場として、大きく成長して戻ってきてくれることを願っています。



未来の音楽家を 育む充実の学び舎

学生がより良い環境で自らの音楽を
探究していけるよう、広い空間から細部に至るまで
こだわりの詰まった校舎になっています。



1 「楽器の中で学ぶ」 を目指した校舎

多くの楽器が木でつくられている
ことから木造にこだわった本校舎。
CLTを多く使用した建築は例が少な
く、多方面から注目されています。

2 選り抜かれた 美しいヒノキ

新校舎全体にはヒノキをふんだんに
使用。ホールや壁面や舞台には仕上
げ材として節の少ない美しいヒノキ
を厳選しています。

3 インクルーシブな 環境をつくる工夫

廊下に敷かれた金属製のセンターラ
インは、歩行を邪魔しない程度のわ
ずかな凹凸と感触の違いで、目の不
自由な人を安全に誘導します。

4 学園生活を守り、 校舎を彩る CLT

構造体としての強度はもちろん、耐
火性にも優れている CLTは、特徴の
ある断面によって印象的な空間を演
出してくれます。

5 音楽家ならわかる ユーモラスなサイン

校舎入口付近の窓には、衝突注意の
サインとして停止の意味も持つ音楽
記号のフェルマータが。音楽学校な
らでは遊び心が垣間見えます。

6 追求を重ねた響きを つくるための角度

折り紙のような構造が印象的なホー
ルの壁面は、音の響きを追求してた
どり着いた角度である 120°に設計
されています。

7 コンセプチュアルな ホールのシンボル

宗次ホールのイニシャル「M」をも
とに、ピアノや弦楽器に見られる曲
線、タクトや打楽器のバチの直線な
どが用いられています。

8 木の弦がつくりだす リズムを楽しむ

校舎全体を覆っているルーバーは楽
器の弦をイメージ。壁面の角度を変
化させることで、見る位置によって
様々な表情を見せてくれます。

9 見た目も楽しい、 ユニークな案内図

立体の案内図は、ホールで使われ
た木材でつくられています。木の温
もりを感じるかわいらしいデザイン
で、訪れる人の目を楽しませます。

10 たくさんの光を 浴びて学ぶ教室

新校舎には授業を行う教室やレッ
スン室も併設されています。教室は
外光を多く取り入れられるよう、大
きな窓のつくりになっています。

11 休憩時に迎えてくれる 小さな音楽家たち

トイレ入口のサインも音楽学校な
らでは。木の色で男女を識別でき
るよう工夫し、楽器を持つ角度など細
部までこだわってつくられています。

12 時間によって見せる 表情を変える校舎

時間ごとの光によって印象が変わ
る校舎外観は、日が暮れ始めると
ライトアップされ日中とは違った表
情をみることができます。

13 「聴く学び」を支える こだわりの椅子

快適な座り心地はもちろん、肘掛を
上げるとベンチ型にもなり、学生だ
けでなく音楽教室の子供たちにも座
りやすい工夫が施されています。

14 より良い音を届ける 充実の設備

舞台上に備え付けられているマイ
クは、目立ちにくいワイヤー方式を
採用。演奏者の邪魔をせず、様々
な楽器編成に柔軟に対応できます。

精一杯音楽と向き合うことが その人の未来につながる

桐朋学園は長年の伝統を守りながら、時代に合わせた教育を追求しています。
懸命に音楽と向き合う学生・生徒それぞれの可能性を拓いていくために、
一人ひとりの個性を尊重した桐朋独自の学びで将来の音楽家たちを育てています。

和気藹々と学び合う中で
それぞれが成長していく

桐朋を訪れる方は皆「賑やかですね」とおっしゃいます。教室に限らず、廊下でもスペースがあれば楽器の練習をそこで始めるような光景を目にされるからです。これは最近に限ったことでなく、古くからの桐朋の伝統です。音楽教室生、高校生、大学生、大学院生がひとつのキャンパスにいて、学年の垣根なく交流したり、真似をしてみたり、お互いが刺激

徒の一人でした。桐朋学園音楽部門の創始者の一人である齋藤秀雄先生に小学生の頃から師事していました。非常に厳しい指導者でしたが子供ながらも、本気で教えてくださっていることが伝わってきたので、「何とか上達したい」と思っていました。私が演奏に苦戦していたときは、「これが主語で、ここは動詞、こちらは形容詞で……」と西洋音楽の形式を日本の文法に例えて、曲の構造を分かりやすく教えてくださったのをよく覚えています。

ご病気で亡くなられる直前まで生徒への指導を続け、命を懸けて音楽を指導する生き様に私はとても感銘を受けました。

多様な個性たちが 切磋琢磨し成長する

し合う。朝早くから夜遅くまで練習しているという厳しい環境のように聞こえるかもしれませんが、そうではなく、それぞれ音楽が好きで真剣に取り組んでいるので、むしろしっかり楽しんでくれていると感じています。

今も私の中に残る
恩師からの熱心な教え

かつての私も真剣に楽しむ生

齋藤先生の熱意や想いは、今の私にも息づいていると感じます。

自らの表現をつくるために
基礎を学び、考え抜く

私は学生・生徒さんを指導する際、「基礎をしっかりと身につけること」と「自分の力で考えること」がとても大切だと伝えていきます。誰かの真似をするだけでなく自分で考え、自分なりに工夫

をして答えを出す力が重要です。基礎がしっかりしていない技術では、次のステージに進めません。自分の表現もままならず、次世代に音楽を継承することもできません。

そして、「仕事の間では、学校と違って能力やスキルだけでは

を築いていく上で重要な素養になると思います。

一人ひとりの可能性と
同じ目線で向き合う

桐朋学園は、建学の精神に「自由で豊かな感性を持つ個性ある音楽家の育成」「音楽教育による社会貢献」「世界における音楽文化の創造」の3つを掲げています。

音楽を学び、音楽に学ぶ

なく、総合点で評価される」ともよく話します。社会に出れば、音楽家は演奏力に加え、当然様々な能力で評価されるようになります。音楽を学ぶ過程で身につくのは技術力や音楽性の深まりだけではなく、他者とのコミュニケーション能力や、調整力、問題に立ち向かう根気強さ……。楽器を通して得られるものの、高めることのできる能力は計り知れないのです。

そういった、努力を続けるなかで備わった我慢強さ、本番に向けての準備の進め方、舞台上で最高の自分を演出するプロセスや集中力は、どのような仕事に就いたとしてもそれぞれの人生の基盤

私たちは一人ひとりの個性を尊重しつつ、それぞれに合ったマンツーマン教育を大切にしています。また海外への留学をサポートしたり、世界で活躍する音楽家による特別レッスンにも力をいれています。私もベルリンに留学し、欧州で様々な現代音楽の演奏会に携ってきたことは貴重な経験になりました。国際的に活動している教え子たちとも、海外の音楽動向についてよく話をしています。

この学校は、素晴らしい教職員にも恵まれています。学生・生徒との距離も近く、安心して学

べる環境をつくってくださいます。どんなときも全力を尽くしてくださっている方々と協力し合いながら、桐朋学園とともに歩みを進めていきたいと思っています。

先輩の姿が道しるべ
憧れの世界を追い求めて

音楽でキャリアをどう築いていくかは見えにくいものです。私が学生時代、とても心強かったのは活躍する先輩たちの姿でした。その背中を追いかけるうちに社会とのつながりができ、自分の将来像がはっきりしていききました。現在もソリストやオーケストラ・プレイヤーといった演奏家に限らず、音楽業界の様々な分野へ人材を送り続ける桐朋学園には、新時代のキャリアデザインの目標となる逸材がひしめいています。

溢れる音楽への情熱が 可能性を切り拓く

音楽に揺るぎのない情熱を持っている人たちの集まりである桐朋学園で、ともに学べる日が来ることを心待ちにしています。

辰巳 明子学長

ヴァイオリンを、鷺見三郎、齋藤秀雄、海野義雄の諸氏に師事。1966年、桐朋学園大学在学中、日本フィルハーモニー交響楽団と共演してデビュー。同大学を首席で卒業後、文化庁在外芸術家研修員としてベルリンに留学。サシコ・ガブリロフ氏に師事。イサン・ Yunや三善晃などの作曲家より楽曲の献呈を受ける。国立ベルリン芸術大学講師を経て、桐朋学園大学にて主任教授、副学長を歴任。2022年学長就任。世界各地の音楽大学で招聘教授としてマスタークラスを行い、数々の国際音楽祭にて指導。日本音楽コンクールをはじめ、20を超える国際コンクールの審査員を務めている。

桐朋の教育理念

【ディプロマ・ポリシー】

以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定されます。

- I. 専門分野を究めるための表現力を有し、主体的に学び続ける意欲を持っている
- II. 専門を支える基礎力としての知識と技能を有し、よいものを探求して見つけ出す能力を持っている
- III. 柔軟で汎用的な視点を持ち、今日的な課題について適切な判断ができる
- IV. 幅広い音楽文化に関心を持ち、専門の枠を超えて新しい音楽文化を創造できる

桐朋学園音楽部門の歴史は、1948年、「子供のための音楽教室」開設から始まります。その教育は、幼児期の自然な歌、あるいは身の回りの音と戯れる喜びから発露する表現への欲求をすくい上げ、早期音楽教育の出発点として位置付けようとする試みでした。「子供のための音楽教室」はその後、教室に通う子供たちの成長に応じて高校、大学、大学院へと展開し、早期教育の成果を一貫した教育理念のもとで発展させる場として、今日まで多くの

優れた音楽家を育成してまいりました。

本学の教育は、専攻実技や合奏教育を中心に、ソルフェージュや音楽理論などの専門科目、語学科目、一般教養科目を配し、これら相互関連の総体を学生・生徒の音楽形成の場として捉えています。なかでも、音楽的感性を鍛える「ソルフェージュ」、表現の可能性を究める「実技」、他者と出会い、自己の枠を超える「合奏」の3つを教育の柱として、柔軟で開かれた教育を実践していきます。

鍛える

究める

超える

鍛

究

超

鍛える

形のない「音」を捉え、使いこなすために不可欠なソルフェージュ。桐朋のソルフェージュ教育は、「音楽する耳」を鍛えます。訓練された繊細な聴覚は、和声法などの音楽理論に裏打ちされることで精度を増し、客観性を獲得します。

す。自身の音を聴き、的確に批評できる耳が、力強く説得力のある表現を生み出すのです。ソルフェージュ教育によって育まれた「音楽する耳」は、生涯を通じて音楽家としての成長を支えてくれるでしょう。



響きの細部を捉える
「耳」をつくる

【ソルフェージュ】

ソルフェージュ教育は、桐朋建学のルーツといえるものです。高校と大学初級では、週2回の授業で基礎力の定着に十分な時間をかけ、大学中級以上では、教員の個性と専門性がより際立つ講座を展開します。基礎を重視する指導がその後の大きな成長を促し、音の表情の細部を余さず捉え、分析する耳を育てます。



音楽家として
必要な理論を身につける

【音楽理論】

音楽理論を学び、音楽の構造や手法を知ること、一つひとつの音の意味を正確に捉えること、音楽を言語のように組み立てることが可能になります。音楽理論に精通することで得られる作品に対する深い理解は、音楽表現の純度を高め、バランス感覚を鍛えます。それが聴衆に感動を与える音楽を生み出します。

鍛

究

超

究める

極めて実践的な実技教育ですが、そこで示されるのは音楽を究める道を歩むための指針です。「音楽を究める道」とは、日々の生活、日々の学びによつて築かれます。音楽の探究に終わりはありません。

桐朋の教育の基幹は、一対一の個人指導で行われる実技教育です。これは、学生・生徒を自立した音楽家として認め、主体性を尊重することによつて、「訓練」ではなく「教育」と呼べるものになります。ここで行われるのは



開かれた学びの場で 個性を伸ばす

【専攻実技】

原則として週1回60分の個人レッスンが行われ、高校から大学、大学院まで、同一教員による継続的な指導を基本とします。実技試験は年2回行われ、コンサートホールでの卒業試験は一般公開されます。内外の著名な音楽家を招聘して行う公開レッスンや公開講座、マスタークラスなど、研鑽の機会も多く用意されています。

二つの専攻で キャリアの幅を広げる

【副専攻】

副専攻は、主専攻以外の実技を主専攻同様に学ぶことのできる制度で、大学生を対象としています。希望者は試験を受け、合格すれば大学1年次から3年次のいずれからでも受講できます。レッスンは週1回60分。4年次には卒業試験があり、修了要件を満たせば「副専攻修了証」が授与されます。

興味を育て可能性を広げる

【選択副科】

在籍年次に関わりなく高校生から大学生まで履修可能。専攻以外の実技レッスンを受講することができます。レッスンは週1回30分（声楽は20分）。積極的な学びが視野を広げます。なかでも本学の副科指揮は、優れた指揮者を多く輩出していることで知られています。専攻実技同様の充実した教育が、新たな可能性を拓きます。

鍛

究

超

超える

他者の奏でる「音」に耳を澄まし、自己の「音」と呼応させ音楽をつくり上げるアンサンブル。楽譜を深く読み解き、音程やアーティキュレーション、リズムなどを緻密に合わせ、あるいは主張し、音楽を形づくります。本学創始者の一人、

齋藤秀雄先生により始められた「桐朋学園オーケストラ」に代表される合奏教育は、実技教育と並んで桐朋の学びの主軸となっています。仲間とともにつくる音楽は、個人の表現の枠を超え、かけがえない音楽体験となります。



伝統のオーケストラ教育で 合奏技術を磨く

【オーケストラ】

オーケストラの授業では、専攻別アンサンブルで合奏技術の基本やオーケストラ・スタディなどを学んだのち、フルオーケストラによる実習に進み、基礎から段階的に修得します。これらの合奏教育は、高校から大学まで一貫したカリキュラムに沿って行われます。これまでに国内外のオーケストラに在籍する楽団員を多数輩出しています。



仲間とともに 音楽をつくり上げる

【室内楽・二重奏ソナタ】

履修希望者は自主的にグループを編成し、年度初めに申請します。3人以上であれば楽器編成に特別な制約はなく、室内楽と2台ピアノでは高校生と大学生がグループを組むこともできます。年間10回以上のレッスンを経て年度末試験を受け、成績優秀なグループは翌年度の春に開催される室内楽演奏会に出演することができます。



桐朋の学び

桐朋の教育は、個の尊重が大きな特色です。
のびやかな学習環境が、個性の発露と個人の
自立を促します。音楽への情熱を支えに日々
模索し、自ら道を切り拓き、目指す音楽を創り
出してゆく強い精神力を育みます。

ピアノ専攻	16	指揮専攻	23
弦楽器専攻	17	作曲専攻	24
管楽器専攻	18	音楽学専攻	25
打楽器専攻	19	カリキュラム	26
ハープ専攻	20	指導陣	28
古楽器専攻	21	特別レッスン	32
声楽専攻	22		

ピアノ専攻

Piano Course



国際的に活躍するピアニストを数多く輩出しているピアノ専攻。ソロはもちろん、室内楽や伴奏などの様々な演奏形態を、レッスンや授業を通じて体系的に学ぶことができます。アンサンブルの機会が豊富にあることも魅力のひとつ。高校生から大学院生まで、個性ある仲間たちと楽しみながらも妥協せずに音楽を創っていくことは、何にも

まさる大きな喜びです。また、海外の著名な音楽家による特別レッスンや公開講座、学内外の演奏企画、ソロやコンチェルトのコンペティションなど、多彩なプログラムとチャレンジの場を用意しています。本学での学びを通して、一生音楽を愛し、それを人々に伝えることができる豊かな感性と魅力あるピアニストを育てていきます。

Focus

豊富な演奏の機会で 自分に相応しいレパートリーを確立

「桐朋 木の香りコンサート」や学内のコンペティションなど、多くの演奏機会に恵まれています。また、年2回の試験課題は、様々な時代や様式の作品を網羅。ピアノ協奏曲も含めた多様な楽曲を学ぶことで、膨大なピアノ作品のなかから自分に相応しいレパートリーを確立できるよう工夫されています。

弦楽器専攻

Stringed Instrument Course

〈ヴァイオリン／ヴィオラ／チェロ／コントラバス〉



弦楽器専攻では、自由で開かれた校風のもと、個性を大切に伸ばす教育を実践しています。経験豊富な指導陣が個々の可能性を導き出し、スケールの大きな演奏家へと育てます。さらに、国内外の音楽家を招聘して行うマスタークラスをはじめ、貴重な学びの場を多数用意。室内楽やオーケストラなど、アンサンブルのカリキュラムも充実し

ています。アンサンブルの授業やレッスンでは、合奏のための技術や奏法、リハーサルの方法などを基礎から指導。学年や専攻の異なる仲間とともに一つひとつ音を創り上げてゆく時間は、豊かな表現力を養うための糧となります。それは同時に、助け合い、協力し合う仲間同士の一体感が生み出される特別な経験となるでしょう。

Focus

実践的なプログラムで オーケストラを基礎から学ぶ

高校と大学のいずれから入学しても、初めに楽器別の合奏でアンサンブルの基礎を学びます。高校3年次から大学までの5年間、または大学からの4年間は、高大混成のオーケストラで合奏の技術を基礎から修得。基本的なレパートリーから高難度の作品まで、著名な指揮者のもとで段階的に実習します。

管楽器専攻

Wind Instrument Course

〈フルート／オーボエ／クラリネット／ファゴット／サクソフォン／ホルン／トランペット／トロンボーン／ユーフォニウム／チューバ〉



打楽器専攻

Percussion Instrument Course

〈パーカッション／マリンバ〉



高校から大学までの期間は、身体的にも精神的にも大きく成長する大切な時期。それは管楽器を学ぶ上でも重要な意味を持ちます。実技指導では、個性を尊重するとともに、演奏の基礎となるソルフェージュを重視。徹底した基礎教育は、技術を向上させるだけでなく音楽そのものへの理解を深め、自ら探究する力を育みます。さらに、

オーケストラをはじめ、木管・金管五重奏など各種編成のアンサンブルのための講座を用意。多様な形態のアンサンブルを効率よく学び、学内外で行われるコンサートへの出演によって、管楽器奏者にとって大切な合奏の技術を実践的に修得します。音楽家として多くの経験を重ねてきた指導陣が、学生たちの表現への意欲を引き出します。

Focus

多彩なアンサンブルを学び、 楽器への理解を深める

編成や規模の違うアンサンブルを学ぶことで各楽器の特性を理解し、編成ごとに異なる演奏や表現方法を身につけます。プロオーケストラさながらの意欲的なプログラムで年間7～8回のコンサートを行い、一流の指揮者やソリストと共演。全専攻生がオーケストラの一員としての演奏を経験します。

打楽器の種類や形態は多種多様で、音楽表現も多彩です。打楽器奏者は、高い専門性と同時に広範な知識や経験を求められます。このため本学では、パーカッションとマリンバのどちらかを主専攻として選択しながら、もう一方も学ぶことのできるダブルレッスン制度を設けています。実技レッスンでは一人ひとりと綿密なコミュニケーション

を取り合い、きめ細かい指導で演奏に必要な技術とセンスを基礎から養います。また、オーケストラや室内楽などアンサンブルの機会も豊富で、合奏について基本から体系的に学習します。世界中から学びに訪れる留学生も多く、文化的・人間的な交流の輪が広がることも特徴のひとつであり、音楽界での多岐にわたる活躍が期待されます。

Focus

アンサンブルの経験が 奏者としての音を創り出す

パーカッションとマリンバ、2種類のアンサンブルのためのカリキュラムを設置。アンサンブルを通して耳を鍛え、学生・生徒たちの技術力と音楽性の向上を図ります。また、作曲など他専攻生と積極的に交流し、新作初演などの経験を通じて打楽器奏者としての可能性を広げていきます。

ハープ専攻

Harp Course

古楽器専攻

Period-Instrument Course

〈バロック・ヴァイオリン／バロック・チェロ／バロック・オーボエ／フラウト・トラヴェルソ／リコーダー／ヴィオラ・ダ・ガンバ／チェンバロ〉



ハープの歴史は古く、その音色は何世紀も前から人々を魅了してきました。本学では、日本におけるハープ奏者の活動の場を広げ、その可能性を切り拓いてきた第一人者の指導により、正しい演奏様式とテクニックを学ぶことができます。また、オーケストラや室内楽におけるハープの重要な役割に注目し、ソリストだけでなく、アンサン

ブル奏者の育成にも力を入れています。公開レッスン形式で行われるアンサンブルやオーケストラ・スタディの授業では、ハープのための重要なレパートリーを取り上げ、優れたアンサンブル奏者として活躍するために必要な技術と知識を基礎から教えます。ハープ奏者に必要な要素を体系的に指導し、次代を担う演奏家として送り出します。

Focus

他楽器との共演が 演奏力・表現力を高める

毎年12月に開催する「ハープアンサンブルの夕べ」は、複数のハープを使ったハープ同士のアンサンブルと、他楽器とのアンサンブル作品で構成するコンサート。専攻生全員が出演します。専攻生が互いに成長を確認する機会であると同時に、他専攻生と共演し交流を深める貴重な機会でもあります。

20世紀中頃以降、音楽作品を演奏する際にそれが作曲された時代の楽器を使用する解釈が試みられてきました。こうした解釈で使われる楽器は一般的に古楽器（ペリオド楽器）と呼ばれますが、本専攻はこの古楽器を専門的に学びます。レッスンやアンサンブルの授業によって演奏技術を高めるだけでなく、主として17世紀、18世紀の

楽器や演奏法、記譜法などの歴史について研究を深めながら、当時の音楽を現代に甦らせるための方法を修得していきます。近年、古楽器による演奏は19世紀以降のレパートリーも視野に入れるようになり、モダン楽器の演奏家が古楽器演奏の方法を取り入れることもあります。古楽器専攻の重要性はさらに高まっていくでしょう。

Focus

様々なタイプのチェンバロにふれ、 探究に合わせて学習する

チェンバロ、クラヴィコード、フォルテピアノなどの鍵盤楽器や、バロック・ヴァイオリンやヴィオラ・ダ・ガンバ、フラウト・トラヴェルソやバロック・オーボエなどの多様な楽器の演奏を通して、楽器の構造、歴史、ピッチ、音律などその時代ならではの音楽習慣を学習し、多角的な考え方を身につけます。

声楽専攻

Vocal Music Course



自らの身体そのものが楽器となる声楽。正確な発声法と呼吸法、充実したソルフェージュや語学教育が、声楽家としての基礎を形づくります。高大一貫の専門教育で音楽家に必要な知識と教養を身につけ、高い能力と個性を併せ持つ優れた演奏家へと成長する力を蓄えます。オペラクラスでは、歌唱や演技はもちろん、舞台をつくり上げ

る工程全般を学びます。現役のオペラ歌手が助演で参加することもあり、プロの役づくりや本番までの準備の方法などを間近に見ることができます。高度なアンサンブルや合唱の授業、海外からの招聘講師による公開レッスンなども充実。器楽専攻生との交流は、音楽を愛する心を育むだけでなく、一生の宝となるでしょう。

Focus

5カ国語によるディクションで正しい発音を学ぶ

言葉の発音法を学ぶディクションの授業が充実。イタリア語、ドイツ語、フランス語、日本語、ロシア語によるカリキュラムを用意。歌曲などを教材に、言語に合わせた正しい発音や発声法など、歌うための基礎的な技術を身につけます。様々な言語にふれることで、自分に合う分野や方向性を模索していきます。

指揮専攻

Conducting Course



指揮者は、演奏の現場で起こる様々な問題を円滑に解決する高い能力が求められます。指揮者は音を出しません。しかし、音楽への理解を深め、現場の奏者たちと良好な関係を築くためには、ソルフェージュや音楽理論などの基礎を徹底して身につけ、ピアノや副科実技のレッスンなどで楽器演奏にも習熟することが不可欠です。優れた

演奏家でもある器楽専攻生たちとの交流は、指揮者には欠かせないコミュニケーション能力や積極性を養います。本学創始者の一人、齋藤秀雄先生から始まる桐朋の指揮の伝統を受け継ぎ、発展させてきた指導陣による教育と、オーケストラの生の音に日常的にふれることのできる環境は、指揮を学ぶ上で大きな魅力となります。

Focus

演奏会のリハーサルを見学し、生きた音楽を学ぶ

オーケストラなどのリハーサルを見学することは、著名な指揮者や演奏家たちのリハーサルでのコミュニケーションや練習プロセスを間近で見て学習する良い機会となります。特に、オペラを一からつくり上げる現場の空気を体感することは、将来、指揮者として活躍するための貴重な経験となるでしょう。

作曲専攻

Composition Course

〈創作芸術／編作芸術〉



作曲専攻では、しっかりした基礎の修得と、創作活動の実践につながる教育を目指しています。高校・大学ともに、一流の指導陣による実技レッスンと、音楽理論や作曲法のクラスを用意。基礎から応用まで段階的に指導します。毎年開催する作曲作品展、国内外の著名な音楽家を招いての公開講座や集中講義など、発表、研究の機会

も数多く提供。また、演奏家とのコラボレーションにより、楽器と奏法についてのバラエティに富んだ探究の場を豊富に設けています。大学では、創作芸術と編作芸術とに専攻が分かれ、創作芸術では和声・対位法・管弦楽法・コンピュータ音楽実習など、編作芸術では合唱曲・吹奏楽曲・管弦楽法などのカテゴリーを設定しています。

Focus

試演会を通じて多くの個性と交流し、友情を育む

本学には、現代音楽に関心があり、現代作品の演奏に積極的な器楽専攻生が数多くいます。作曲専攻生と器楽専攻生との距離が近く、学生同士で試演会を企画するなど、高次の区分なく自作品を音にする機会に恵まれています。様々な専攻の友人たちは、卒業後も助け合える大切な仲間となります。

音楽学専攻

Musicology Course



「音楽学」とは音楽に関する学問の総称。本専攻では、学生の音楽的素養を生かしながら、西洋音楽史、民族音楽学、音楽理論、音楽美学、ポピュラー音楽学など、様々な角度から音楽について考えます。実技も頑張りながら学問にふれることができるのが、桐朋の特徴。指導にあたる専任教員は、著書や論文の執筆、国内外での発表を毎

年行っており、音楽史を掘り下げる「専攻演習」、外国語の文献を読み解く「楽書講読」など、多彩なプログラムを用意しています。教員と学生との自由で活発な議論によって、新しい世界が開かれることでしょう。国内有数の資料数を誇る図書館との連携によって「聴く勉強」が充実していることも、大きな特色です。

Focus

自由で開かれた学習環境のもと、自身の音楽学を探索

音楽学専攻の必修科目は少人数のゼミ形式。一人ひとりにきめ細かく対応し、卒業論文では担当教員が毎週1時間の指導を行います。少人数のため演習形式の授業が多く、研究発表の機会も豊富。教員と学生の距離が近く、対等に議論を交わすことのできるレベルな雰囲気も特徴のひとつです。

カリキュラム

本学は、1コマ90分という時間割設定と、授業開講期間、試験期間、文化祭などの年間予定を高大で共有することで、高校から大学までの一貫性を重視したカリキュラム編成を実現しています。学生・生徒の能動的な学びを引き出す豊富な選択科目、学習効果を高めるレベル別少人数授業なども大きな特色です。ここでは、そうした特色を生かした科目を抜粋しています。カリキュラム全般については本学ホームページに掲載しています。



専門科目

ソルフェージュ

必修科目。高大ともにグレード別少人数編成によるクラス授業を行っています。個人のグレードは所定の試験を経て一定期間ごとに更新され、常にレベルに合った指導を受けることができます。大学中級以上は多彩な講座のなかから自由に選択することができます。

和声

高校からの入学者は大学1年次までの4年間必修、大学からの入学者は3年次までの3年間必修です。大学からの入学者は和声既習者と未習者とでクラスを分けるため、無理なく確実に学習できます。和声の修得が、音楽理論や演奏法などへと発展します。

音楽理論・音楽史

音楽理論は、高校では音楽理論基礎、大学では音楽理論概論で楽典などを学んだ後、楽曲分析などへと展開します。音楽史は、高校では2、3年次に、大学からの入学者は1年次に概説を学んだ後、より専門的な視点で「音楽を考える力」を育みます。

語学科目

英語は高校3年間必修です。高校2年次からは独・仏いずれかを履修することができ、3年次で取得した独・仏の単位は桐朋学園大学の単位として認定されます（高大連携科目）。大学では英・独・仏・伊の各国語から1カ国語以上を選択します。

室内楽・二重奏ソナタ（2台ピアノを含む）

自由選択科目。室内楽や二重奏ソナタのレッスンを通年で受けることができます。年次による編成の制限がある以外にメンバー構成の制約はなく、高校生と大学生でグループを編成することも可能です。指導教員を2名まで希望することができます。

専攻別アンサンブル

弦・管・打・ハープ・古楽器・声楽専攻生を対象とする授業。対象年次は専攻ごとに異なります。楽器専攻生は専攻楽器同士での合奏、または異なる楽器との合奏を通じて、声楽専攻生は合唱を通じて、アンサンブルの技術と表現を基礎から学びます。

オーケストラ

高校3年次の弦楽器専門生と大学の弦・管・打・ハープ専攻生を対象とする通年授業。高校生と大学生とでひとつのオーケストラを編成し、指揮者のもとでのオーケストラ演奏を学びます。その後、演奏会ごとに設置されるオーケストラでさらに経験を積みます。

一般教養科目

特色ある講座のなかから、学生・生徒が自身の興味や必要に応じて選択し、履修することができます。人文科学、社会科学、自然科学、身体活動の各分野において、音楽家をめぐる今日的な課題について多角的に考えるための講座を設置しています。

高校からの入学者	大学からの入学者	共通
----------	----------	----

	桐朋女子高等学校 音楽科（男女共学）			桐朋学園大学 音楽学部			
	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	4年次
専門科目	ソルフェージュ						
	和声Ⅰ	和声Ⅱ	和声Ⅲ	応用和声Ⅱ			
				和声法Ⅰ	和声法Ⅱ	応用和声Ⅰ	
	音楽理論基礎	音楽理論応用		音楽理論（分析）			
				音楽理論概論		※和声法Ⅱの単位取得者	
		音楽史					
				音楽史概説			
	専攻実技						
	副科実技						
				副専攻			
	室内楽	室内楽・2台ピアノ		室内楽・二重奏ソナタ（2台ピアノ含む）			
語学科目	国語			日本語表現			
	英語						
		ドイツ語／フランス語（初級）		ドイツ語／フランス語（中級）			
				ドイツ語／フランス語（初級）			
				イタリア語			

Teacher-training course

▶ 教職課程

卒業単位の他、教職課程に定められた単位を修得することによって、右記の教員免許状を取得できます。教員免許状を取得するためには、教職に関する科目の他、学外での介護等体験や教育実習などの実習を含む単位が必要となります。本学学生は積極的に教職課程を履修しており、約7割の学生が卒業時に教員免許状を取得しています。

中学校教諭一種免許状（教科：音楽）

高等学校教諭一種免許状（教科：音楽）

※大学のみ

指導陣

2023年度

学長	辰巳 明子	学生部長	杵鞭 広美
理事	長瀬 浩平	図書館長	沼野 雄司
学部長	中井 恒仁	高校部長	合田 香
研究科長	中井 恒仁	音楽教室部長	久保田 巧
教務部長	姫野 雅子		



実技等指導陣

※ 教員名の右上の印は以下の職名などを表します。

※ 大学専任教員 ★ 高校教諭 ◇ 特命教授 ● 特任教授 □ 特別招聘教授 ○ 特任講師

※ 副科として掲載している教員は、当該専攻の副科実技のみを担当します。

ピアノ

中井 恒仁 * (主任)	関本 昌平 *	玉置 善己 ●	川島 伸達	鶴園 紫磯子	楊 麗貞	【副科ピアノ】
新井 博江 *	上野 久子 ◇	村上 弦一郎 ●	河村 晋吾	外山 啓介	吉武 優	小澤 英世
清水 和音 *	海老 彰子 ◇	若林 顕 ●	木村 徹	奈良場 恒美	吉村 真代	小田 裕之
仲道 郁代 *	岡本 美智子 ◇	青柳 晋	後上 聡司	沼沢 淑音	渡邊 康雄	垣内 敦
朴 久玲 *	山田 富士子 ◇	入江 一雄	斎木 隆	練木 繁夫		佐藤 勝重
廻 由美子 *	Pascal Devoyon ●	江澤 聖子	佐藤 彦大	広瀬 康		中川 賢一
阿部 美果子 *	伊藤 恵 ●	大西 真由子	高田 匡隆	三原 未紗子		中川 朋子
有吉 亮治 *	須田 眞美子 ●	大伏 啓太	高橋 多佳子	三輪 郁		松谷 園子
今井 彩子 *	田部 京子 ●	金子 恵	竹内 啓子	山崎 牧子		宮木 麻衣

弦楽器

▼ ヴァイオリン・ヴィオラ	篠崎 功子 ◇	藤原 浜雄 ●	戸田 弥生	毛利 伯郎 ●	▼ コントラバス	【副科ヴァイオリン】
久保田 巧 * (主任)	庄司 紗矢香 ◇	伊藤 亮太郎	豊嶋 泰嗣	山崎 伸子 ●	市川 雅典 *	梅津 美葉
景山 誠治 *	徳永 二男 ◇	木野 雅之	水谷 晃	刈田 雅治	新井 綾香	
加藤 知子 *	原田 幸一郎 ◇	久保 良治	村上 淳一郎	菊地 知也	石川 滋	
辰巳 明子 *	堀 正文 ◇	佐々木 亮	山口 裕之	木越 洋	稲川 永示	
豊田 弓乃 *	池田 菊衛 ●	篠崎 友美	▼ チェロ	北本 秀樹	星 秀樹	
神谷 美千子 *	漆原 啓子 ●	篠崎 史紀	長谷川 陽子 *	銅銀 久弥	本間 達朗	
田中 晶子 *	恵藤 久美子 ●	清水 醍輝	倉田 澄子 ◇	古川 展生	渡邊 章成	
石井 志都子 ◇	清水 高師 ●	鈴木 康浩	堤 剛 ◇			
磯村 和英 ◇	竹澤 恭子 ●	店村 眞積	上村 昇 ●			

管楽器

▼ フルート	▼ オーボエ	▼ クラリネット	吉野 亜希菜	▼ サクソフォン	▼ トランペット	栗田 晃
神田 寛明 *	嶋崎 耕三 *	亀井 良信 *	▼ ファゴット	武藤 賢一郎 ●	長谷川 潤 *	古賀 光
白尾 彰 ●	広田 智之 ●	勝山 大輔	岡本 正之 ●	小山 弦太郎	田中 敏雄	▼ ユーフォニウム
倉田 優 ○	岡 北斗	野田 祐介	井上 俊次	▼ ホルン	佛坂 咲千生	佐藤 采香 ○
泉 真由	小野寺 彩子	芳賀 史徳	佐藤 由起	上原 宏 * (主任)	山本 英司	▼ テューバ
梶川 真歩	高橋 舞	林 裕子	武井 俊樹	猶井 正幸 ●	▼ トロンボーン	久保 和憲
小池 郁江	最上 峰行	藤井 洋子	福井 弘康	今井 仁志	神谷 敏 ●	渡辺 功
高野 成之		三界 秀実		吉永 雅人	今村 岳志	

打楽器

▼ パーカッション	▼ マリンバ	▼ パーカッション・マリンバ
小島 光 ●	安倍 圭子 ◇	安江 佐和子 ○
近藤 高顕 ○	中村 友子	
渡邊 壮	藤井 里佳	

ハープ

篠崎 史子 ◇	井上 美江子	篠崎 和子
---------	--------	-------

古楽器

▼ バロック・ヴァイオリン	▼ バロック・チェロ	▼ バロック・オーボエ	▼ リコーダー	▼ チェンバロ	【副科チェンバロ】
寺神戸 亮 ●	Emmanuel Girard ●	桐山 温子	古橋 潤一	有田 千代子 ●	植山 けい
戸田 薫	酒井 淳 ●	▼ フラウト・トラヴェルソ	▼ ヴィオラ・ダ・ガンバ	渡邊 順生	【副科オルガン】
		有田 正広 ●	Emmanuel Girard ●		水野 均

声楽

大橋 ゆり * (主任)	藤川 泰彰 ★	園田 真木子	長尾 康世	安井 陽子	【副科声楽】
腰越 満美 *	落合 美和子	谷 茂樹	牧川 修一	嘉目 真木子	北村 典子
鈴木 准 *	駒井 ゆり子	丹藤 麻砂美	松井 康司	与那城 敬	
宮本 益光 *	里中 トヨコ	塚田 裕之	村上 明子		
大島 幾雄 ◇	篠原 百合乃	友清 崇	森 麻季		

指揮

沼尻 竜典 *	小澤 征爾 ●	新田 ユリ ○	村上 寿昭
尾高 忠明 ◇	増井 信貴 ●	篠崎 靖男	吉田 行地

作曲

鈴木 輝昭 * (主任)	久木山 直 ○	田口 真理子	藤井 一興 ●	▼ 作曲理論ピアノ	三輪 郁	【副科作曲】
石島 正博 *	池田 哲美	西岡 龍彦	栗 孝之 ●	石島 正博 *	吉田 真穂	遠藤 真理子
土田 英介 *	大家 百子	原田 敬子	伊藤 康英	土田 英介 *		金田 望
鷹羽 弘晃 *	井上 渚	松波 匠太郎	金子 仁美	飯野 明日香		波立 裕矢
森山 智宏 *	加藤 真一郎	▼ 作曲法演習	佐藤 岳晶	石岡 久乃		山口 恭子
正門 憲也 ★	金子 仁美	鈴木 輝昭 *	新垣 隆	加藤 真一郎		山下 美香
三瀬 和朗 ◇	清水 篤	土田 英介 *	村上 寿昭	竹内 啓子		渡部 真理子
香月 修 ●	鈴木 純明	野平 一郎 ●	渡辺 裕記子	林 達也		

音楽学

沼野 雄司 * (主任)	安田 和信 *	佐藤 康太 *
--------------	---------	---------

大学 | 専門科目

ソルフェージュ

森山 智宏 * (主任)	安西 房代	久保田 千裕	田口 真理子	長谷川 由美子	柳川 瑞季
鷹羽 弘晃 *	井澤 岳野	沢木 良子	田中 やよい	百武 眞弓	山口 恭子
五十嵐 琴未 ★	上田 真樹	塩崎 美幸	塚田 眞理	船橋 泉乃	渡部 真理子
伊倉 由紀子 ★	加藤 真一郎	清水 篤	築田 佳奈	堀井 佐知子	
鈴木 しのぶ ★	加藤 千春	十川 菜穂	中村 理奈子	松井 裕紀子	

音楽学・音楽史

沼野 雄司 * (主任)	上尾 信也 ○	今井 千絵	後藤 菜穂子	沼口 隆	平間 充子	米田 かおり
安田 和信 *	西原 稔 □	大津 聡	今野 哲也	伏木 香織	前原 恵美	
佐藤 康太 *	池原 舞	川本 聡胤	佐々木 美奈子	藤村 晶子	増野 亜子	

和声法・音楽理論・芸術音楽

鈴木 輝昭 * (主任)	森山 智宏 *	栗 孝之 ○	伊藤 康英	加藤 真一郎	新垣 隆	山中 千尋
石島 正博 *	正門 憲也 ★	久木山 直 ○	井上 渚	工藤 真希子	林 達也	渡部 真理子
土田 英介 *	梅津 時比古 ◇	Yohanan Chendler	魚返 明未	今野 哲也	引地 誠	
鷹羽 弘晃 *	藤井 一興 ○	池田 哲美	遠藤 真理子	下山 静香	松波 匠太郎	

その他専門科目

▼ピアノ伴奏法	▼ピアノ・リテラチュア	▼オペラクラス	福永 一博	▼音の物理学	▼弦合奏
藤井 一興 ○	楠原 祥子 ○	大橋 ゆり *	▼オペレッタ・ミュージカル演習	越智 景子	市川 雅典 *
古高 晋一	▼ピアノ実技指導法	腰越 満美 *		▼オーケストラ	田中 晶子 *
▼伴奏クラス	玉置 善己 ○	鈴木 准 *	鶴木 絵里	蠣崎 耕三 *	稲川 永示
小田 裕之	▼声楽ディクシオン	▼声楽アンサンブル・合唱	▼指揮法	亀井 良信 *	景山 裕子
松谷 園子	大橋 ゆり *	高山 美佳	▼音楽療法の理論と技法	上原 宏 *	菊地 知也
▼ピアノ演奏法	宮本 益光 *	宮本 益光 *	▼音楽療法の理論と技法	長谷川 潤 *	藤村 俊介
廻 由美子 *	藤川 泰彰 ★	大津 康平	小宮 暖	合田 香 *	▼室内楽講座
有吉 亮治 *	駒井 ゆり子	加藤 洋朗	▼音の生理学		藤井 一興 ○
今井 彩子 *	渡部 智也	塚田 裕之	竹田 数章		
河村 晋吾		友清 崇			

大学 | 語学科目・一般教養科目・教職課程科目

語学科目

▼英語	大島 路子	矢向 寛子	十川 菜穂	Stefan Säbel ○	杉山 真佑美	Rufo Costanza
長瀬 浩平 *	奥野 元子	安野 直	萩原 さがみ	Markus Freyberg	松村 亜矢	
三浦 大輔 ★	鈴木 希	▼フランス語	山上 昌子	猪狩 弘美	武藤 陽子	
Jeremy Fulton ○	田中 直人	加藤 三和	山邑 久仁子	大野 雄三	吉村 暁子	
石山 ひかる	田中 由香	小森谷 朋子	▼ドイツ語	織田 晶子	▼イタリア語	
磯西 翔子	間瀬 裕子	佐藤 ローラ	玉川 裕子 *	川名 真矢	Vincenzo Spinuso ○	

一般教養科目

姫野 雅子 * (主任)	西野入 篤男 ★	内田 裕太	木下 頌子	須関 裕子	野上 圭太
杵糠 広美 *	室田 大樹 ★	江川 純一	小松 志朗	千田 実	秦 江里奈
玉川 裕子 *	浅野 充	遠藤 記代子	小宮 暖	富澤 萌未	原口 佳誠
長瀬 浩平 *	阿部 史佳	加藤 三和	里岡 純子	長井 淳	水野 泰尚
荒巻 由紀 ★	伊澤 英紀	金澤 宏明	清水 郁子	中山 夏織	

教職課程科目

杵糠 広美 * (主任)	河原 勇人 ○	石坂 浩毅	小高 臣彦	宮城 哲
宮本 益光 *	風見 章 ○	狩野 浩二	竹下 善博	山本 剛

高校 | 専門科目

ソルフェージュ

五十嵐 琴未 ★	森山 智宏 *	田口 真理子	築田 佳奈	百武 眞弓	松井 裕記子
伊倉 由紀子 ★	加藤 千春	田中 やよい	中村 理奈子	船橋 泉乃	柳川 瑞季
鈴木 しのぶ ★	清水 篤	塚田 眞理	長谷川 由美子	堀井 佐知子	

ピアノ初見

伊倉 由紀子 ★	鈴木 しのぶ ★	大伏 啓太	百武 眞弓
----------	----------	-------	-------

音楽史

音楽理論

安田 和信 *	正門 憲也 ★	鷹羽 弘晃 *	井上 渚	小島 有利子	藤村 晶子
藤村 晶子	石島 正博 *	森山 智宏 *	加藤 真一郎	篠田 昌伸	松波 匠太郎
米田 かおり	土田 英介 *	石濱 加夏子	桐山 温子	下田 幸二	渡部 真理子

弦楽アンサンブル・弦楽オーケストラ

独唱・合唱

室内楽（ピアノ）

市川 雅典 *	長谷川 陽子 *	景山 裕子	藤川 泰彰 ★	篠原 百合乃	小澤 英世
田中 晶子 *	稲川 永示	清水 醍輝	大橋 ゆり *	塚田 裕之	佐藤 勝重

高校 | 普通科目

外国語

▼英語	石井 裕香	末松 紀子	間瀬 裕子	▼ドイツ語	杉山 真佑美	▼フランス語
三浦 大輔 ★	石山 ひかる	鈴木 希	宮崎 由美子	玉川 裕子 *		小森谷 朋子
Damian Macintosh ○	磯西 翔子	高岡 朱美		川名 真矢		山邑 久仁子

他科目

▼国語	▼地理歴史・公民	▼数学・理科・情報	土田 智美	▼家庭科	▼保健体育	福田 大和子
西野入 篤男 ★	室田 大樹 ★	姫野 雅子 *	増田 翔也	川島 しずゑ	荒巻 由紀 ★	
内田 裕太	笹村 剛	石井 眞紀子		矢野 祐子	伊澤 英紀	
千田 実		上野 国子			須関 裕子	

大学院 | 専門科目・関連科目・総合科目

(修士課程・博士後期課程)

ピアノ

声楽

作曲理論

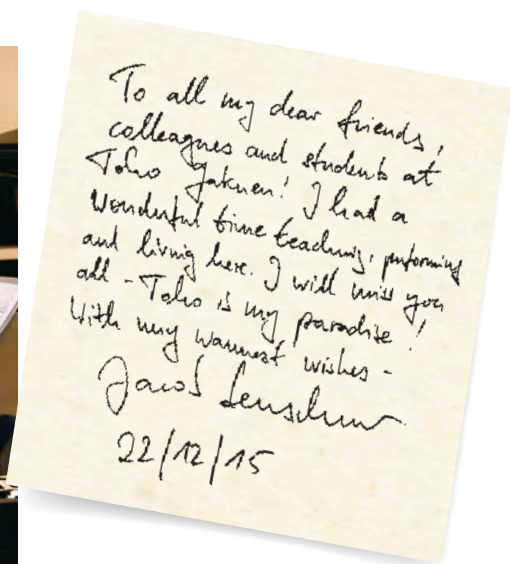
音楽学

▼コレペティツィオン	▼声楽特殊研究・歌曲・台本研究	太田 朋子	▼作品分析・創作演習	金子 仁美	▼文献・原書購読	大津 聡
田島 亘祥		岸本 力	鈴木 輝昭	佐藤 岳晶	沼野 雄司	西原 稔
▼歌曲伴奏		田島 亘祥	石島 正博	藤井 一興	安田 和信	
星野 明子		村上 寿昭	土田 英介	栗 孝之	佐藤 康太	
▼器楽特殊研究			池田 哲美	渡辺 祐紀子	上尾 信也	
武田 美和子			加藤 真一郎		今井 千絵	

特別レッスン

本学の教育の成果は海外にも広く知られ、本学の学生や教育システムに関心を持つ多くの演奏家や指導者が世界中から来校し、特別レッスンや公開講座を行っています。国際色豊かなレッスンは学生の視野を広げ、世界の舞台上で活躍する音楽家を育成します。

詳細はWebへ



桐朋学園のすべての皆さんへ

私がここで教え、演奏をし、生活をしたのは本当に素晴らしい日々でした。皆さんにまたお会いすることが待ち遠しいです、桐朋は私の楽園でした！心を込めて。
ヤコブ・ロイシュナー

交流協定で世界の学びを身につける

桐朋の交流協定校、独ゲトモルト音楽大学のヤコブ・ロイシュナー教授が、2022年9月から12月まで本学で26人の学生・生徒の定期レッスンを行いました。本学からは中井恒仁教授をゲトモルト大学に派遣しました。

ピアノ特別レッスン

ヤコブ・ロイシュナー

ゲトモルト音楽大学 教授

今回の長期滞在で、担当した学生一人ひとりの日々の発達過程をみることで、ドイツの私のクラスで日々行っているような関係を、学生と構築できました。日本の学生さんは恥ずかしがり屋でしたが、それでも多くの学生が質問や意見を伝えてくれました。時には異議を唱

えたり、自分の考えを主張してくれる学生さんもありました。レッスンでは、学生によって内容を変えており、皆に同じ要求はしません。それぞれがそれぞれに興味を持って勤勉に学んでくれました。今後、双方の大学で学生交流がより活発になって、例えば室内楽プロジェクトなどが共同で開催できると良いですね。考えるだけで楽しいです。

学生から「ドイツ音楽のレパートリーを文化的に異なる日本人が表現するのは難しいと感じますか？」という質問を受

けました。文化の違いはあっても表現の可能性はその人の内的な豊かさから生み出されるものだから表現できないことはありません。日本はアジア諸国のなかでも西洋音楽に長い伝統があります。日本人が表現できないのではなく、多くの日本人が、十分に自由に演奏する勇気が足りないだけだと思います。どうか、間違いを恐れないでください！間違いを避けることよりも、さらに大切なのは「何を表現するか」ということです。勇気を持って弾いてください！

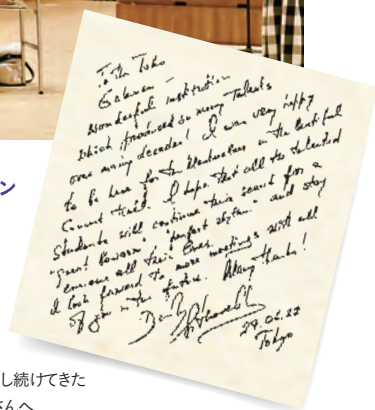


ヴァイオリン特別レッスン

ドミトリー・シトコヴェツキー

ヴァイオリニスト／指揮者／
グリーンスボロ交響楽団 音楽監督

多くの才能を何十年にもわたって輩出してきてきた素晴らしい学校である桐朋学園の皆さんへ、この美しいコンサートホールでマスタークラスができたことを本当に嬉しく思います。才能豊かな皆さんが、素晴らしい弓さばき、完璧なリズムへの探求を続け、人生にわたって好奇心を持ち続けてくれることを願っています。将来また皆さんに会えることを楽しみにしています。ありがとうございます！ドミトリー・シトコヴェツキー



ピアノ特別レッスン

ヘンリ・シーグフリードソン

フォルクヴァング芸術大学 教授

桐朋学園の皆さんへ、はじめてこの素晴らしい学校で教える機会に恵まれました。学生の皆さん、そして先生方が非常に高いレベルの芸術性として、ピアノリズムを築き上げていらっしゃることを心から称賛したいと思います。喜びと素晴らしい雰囲気の流れる2日間を過ごすことができとても光栄です。音楽を込めて、ヘンリ・シーグフリードソン

ピアノ特別レッスン

ミシェル・ダルベルト

ピアニスト

何年もの時を経て、再び（桐朋に）戻ってくることができたことは大きな喜びです。驚くほどハイレベルな学生にとっても感心しています。私は喜びとともにまたここに帰ってくるでしょう。ミシェル・ダルベルト



特別レッスン・公開講座担当者一覧 (2022年実績・一部抜粋)

青山 貴（バリトン 二期会）／新井 綾香（コントラバス 本学非常勤講師）／有田 千代子（チェンバロ 本学特任教授）／有田 正広（フ라우ト・トラヴェルソ 本学特任教授）／池田 菊衛（ヴァイオリン 本学特任教授）／石川 滋（コントラバス 本学非常勤講師、読売日本交響楽団ソロ首席奏者）／出雲 蓉（舞踏家）／岩崎 洸（チェロ 元本学特任教授）／ジャン＝ジャック・エーゲルディンゲル（音楽学 ジュネーブ大学音楽学名誉教授）／恵藤 久美子（ヴァイオリン 本学特任教授）／海老 彰子（ピアノ 本学特命教授）／大宮 臨太郎（ヴァイオリン NHK交響楽団首席奏者）／岡本 哲史（コントラバス ニューヨーク・フィルハーモニック）／神田 めぐみ（トロンボーン ミルウォーキー交響楽団首席奏者）／菅野 由弘（早稲田大学理工学術院基幹理工学部表現工学科教授）／オリヴィエ・ギャルドン（ピアノ スコラ・カントルム音楽院教授）／桐山 温子（バロック・オーボエ 本学非常勤講師）／ルーカ・ゴルラ（声楽 ミラノ市立ラウディオ・アッパード音楽院教授）／坂本 麻実（舞踏家）／佐藤 拓（アレクサンダー・テクニーク指導者）／ヘンリ・シーグフリードソン（ピアノ フォルクヴァング芸術大学音楽部教授）／ドミトリー・シトコヴェツキー（ヴァイオリン、指揮）／エマニュエル・ジャール（バロック・チェロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ 本学特任教授）／チャールズ・ズベンサー（ピアノ 元ウィーン国立音楽大学教授）／田中 尚美（メイクアップアーティスト）／ミシェル・ダルベルト（ピアノ）／パスカル・ドヴァイヨン（ピアノ 本学特任教授）／戸田 薫（バロック・ヴァイオリン 本学非常勤講師）／野平 一郎（作曲 本学特任教授）／福士 則夫（作曲 元本学特任教授）／藤原 浜雄（ヴァイオリン 本学特任教授）／松田 拓之（ヴァイオリン NHK交響楽団次席奏者）／イザベル・ムンドリー（作曲 ミュンヘン音楽・演劇大学教授）／森田 昌弘（ヴァイオリン NHK交響楽団首席奏者）／ベーター・ヤブロンスキー（ピアノ）／ハネス・ロイビン（トランペット ミュンヘン音楽大学教授）／ヤコブ・ロイシュナー（ピアノ デトモルト音楽大学教授）／齋田 実土里（舞踏家）

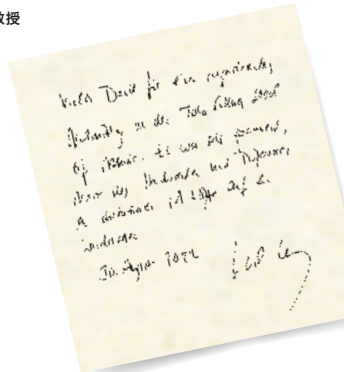
※所属・役職はレッスン当時のものです。

作曲公開講座

イザベル・ムンドリー

ミュンヘン音楽・演劇大学 教授

桐朋学園でインスピレーションに富んだ午後を過ごすことができたことに感謝します。学生や先生方との議論は、とても興味深かったです。またお会いできることを楽しみにしています。イザベル・ムンドリー



Campus life

【桐朋生のキャンパスライフ】

桐朋学園の学生たちは同じ音楽を志す者として、互いに切磋琢磨できる環境のなかで、日々練習に励んでいます。自身に合ったスタイルで過ごす学校生活。ここでは、学生のキャンパスライフの一部をご紹介します。

桐朋生の1日 35 コンサートスケジュール... 40
活躍する桐朋生 38 キャンパスガイド 42

Our days

桐朋生の1日

個々人に合ったスタイルで、授業や自主練習を通じて音楽の才能を伸ばしています。
桐朋生の朝練習、夜練習、学生会館、3つのキャンパスライフをご紹介します。

Case 1
朝練



早朝の集中力が
私の学びを
高めてくれる

安原 実里さん

桐朋女子高等学校 音楽科（男女共学）3年
ピアノ専門

3歳よりピアノをはじめる
2019年 子供のための音楽教室（小金井教室）入室
新井博江氏に師事
2020年 桐朋女子高等学校 音楽科（男女共学）入学

桐朋学園は校内の至る場所で楽器を演奏している人がいて、本当に音楽に溢れた環境です。私も始業前や授業の合間を利用してピアノの練習をしています。最も集中力が高まるのは頭がスッキリと冴えた早朝ですね。学校生活は忙しくもありますが、同級生と話す時間が良い息抜きにもなっていますし、毎日とても充実しています。

Ⅱ 時間割（2年次）

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	音楽史	ソルフェージュ	英語	ドイツ語	体育実技
2	英語	ドイツ語	国語応用	数学 A	ソルフェージュ
3	音楽理論応用	和声	科学と人間生活		現代社会
4			ホームルーム	合唱	
5					

On a Tuesday

5:00	8:40	10:20	12:40	14:20	16:00	18:00
学校で練習	授業	授業	授業（和声）	休憩	帰宅	自宅で練習



探究心が育つ2台ピアノ

相手の音を集中して聴く2台ピアノはソロとは違う勉強ができますし、「この曲も弾いてみたい」という探究心が生まれます。



蓄えた知識が成長に結びつく

ソルフェージュの苦手な部分を和声の知識で補うなど、どの授業も意外な発見や学びがあるので、表現力の向上につながっています。



ホッとできる空間で息抜きも

空き時間はレッスン室で練習したり、友人と集まって話したりしています。校内にあるお気に入りの場所で過ごすのが好きですね。



Ⅱ 時間割 (3年次)

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1						
2			音楽理論 (分析) 音楽史各論Ⅲ			
3	ソルフェージュ (SPⅢb)	20世紀 アンサンブル史(後期)			音楽史各論	
4		芸術音楽	英語 15-R			管アンサンブル
5	音楽理論 (分析)	音楽史各論	音楽理論 (分析)	オーケストラ 中級 クラス (5・6 限)		管アンサンブル

音楽に集中し、
追究できる
環境が心地よい

林田 慶太さん

桐朋学園大学 音楽学部 4年
管楽器専攻 (フルート)

9歳よりフルートをはじめる
12歳より永井由比氏に師事
2018年 つくばフルートコンクール2018
ジュニア部門 入選
2019年 桐朋学園音楽部門高校卒業演奏会 出演

朝が苦手なので放課後に練習時間を確保することが多いです。自宅や学校のレッスン室を基本に、レッスン室の予約が埋まっているときは校舎の廊下で練習することも。毎日音楽に没頭して過ごしています。桐朋学園は自分の夢を叶えるために頑張っている人が大勢いる場所。お互いに素直に夢を語れる、居心地のよい環境だと思います。

On a Thursday

10:00	15:30	16:30	20:00	20:30	21:00	22:00
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

自宅で練習

登校

授業
(オーケストラ)

夕食

自習

学校で練習

帰宅



準備や練習に向けて登校

オーケストラの授業は事前のセッティングも学生がやるんです。授業前は早めにホールに行き、時間に余裕をもって準備を始めます。



オーケストラの授業は貴重な体験

宗次ホールで行うオーケストラの授業はとても実践的。周りの演奏を聴いて学べることや気づくことも多く、最も好きな授業です。



空いた時間に音楽で遊ぶ

多方面から音楽の知識を深められるよう、練習の合間をぬって運指表を制作したり、作曲家を生年月日順に整理したりしています。



Ⅱ 時間割 (3年次)

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	芸術音楽		音の生理学β	音楽科教育法Ⅲ	
2		音楽文献学	楽書講読Ⅱ	音楽科教育法Ⅳ	音楽学専攻演習
3				指揮法 A	音楽史各論
4		芸術音楽			ドイツ語 14
5	音楽理論 (分析)	日本音楽概論			伴奏クラスI

頼れる先生や
仲間にもまれ
自立した日々を満喫

岩田 玲奈さん

桐朋学園大学 音楽学部 4年
音楽学専攻 選択副科：ピアノ

2005年 ヤマハ音楽教室「幼児科」入会
2008年 岩野めぐみ氏にピアノを師事
2016年 桐朋女子高等学校 音楽科(男女共学)入学
新井博江氏にピアノを師事
2019年 桐朋学園大学 入学
ピアノ専攻から音楽学専攻に転科

高校入学と同時に学生会館での暮らしをスタート。最初は不安でしたが優しい管理人さんがいたり歓迎会を開いてもらえたりと、すぐに慣れ、楽しい日々が過ごせるように。転科を悩んでいた際は先生が親身に相談に乗ってくれましたし、学生一人ひとりと向き合ってくれる桐朋学園なら、自分らしい将来の道が切り拓けると思います。

On a Friday

10:20	12:40	14:20	16:00	17:30	18:00	20:00
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

授業
(音楽学専攻演習)

授業

授業

授業

図書館で資料探し

自室で夕食

自室で自習



多彩な視点で学ぶ音楽学の授業

音楽関係の文献について調べ、学生が交代で発表を行う音楽学専攻演習は、多様な視点で学ぶことができる良い機会になります。



学びを支える充実の図書館

授業に必要な資料などは図書館で揃えることが多いですね。音源をその場で試聴したり、辞書を読んだり、よく利用しています。



初めての一人暮らしも安心の環境

日々の食事は部屋で自炊することが多いですね。困ったことがあったら管理人さんがサポートしてくれるので安心して暮らせます。

Our success

活躍する桐朋生

コンクール出場やオーケストラ参加など、様々なステージで活躍する桐朋生。
その経歴や活動内容、それぞれの想いについてご紹介します。

Pickup

ドイツでの経験を成長に変えて

第18回 エトリンゲン
国際ピアノコンクール（ドイツ）
B カテゴリー 第1位

原田 怜さん

桐朋女子高等学校 音楽科（男女共学）2年
ピアノ専門

「一度世界を見てきたほうがよい」という先生の勧めで参加したコンクール。現地の審査員に直接講評をもらったことや、作曲家が暮らした街の文化にふれたことが貴重な学びになりました。過去に弾いた曲も改めて練習すると新たな発見や気づきがあり、すべての時間が成長につながったと感じています。

Pickup

自分の音楽を極めるための通過点

第91回 日本音楽コンクール
ピアノ部門 第1位、岩谷賞（聴衆賞）

坂口 由侑さん

桐朋学園大学 音楽学部 3年
ピアノ専攻

大きな会場で素晴らしいオーケストラや指揮者と一緒に演奏することができたあの舞台、ずっと心が高揚していました。しかし、コンクールでの受賞は決してゴールではなく、「自分にしかできない音楽を追求するため」の始まり。これからもっとたくさんの曲を弾いて、自分だけの音楽を極めたいです。



Pickup

経験の数がもたらしてくれる喜び

第8回 仙台国際音楽コンクール
ヴァイオリン部門 優勝

中野 りなさん

桐朋女子高等学校 音楽科（男女共学）3年
弦楽器専門（ヴァイオリン）

コンクールの受賞を機に、コンサートで演奏する機会が増えています。大きな舞台上で演奏するという経験を重ねるなか、少しずつ緊張より「楽しい」という感情が勝るようになってきました。もっと技術を磨き、何百年も前に生まれた音楽の素晴らしさや価値を、たくさんの人へ届けたいと思います。

コンクールでの活躍（2022年度実績）

ロン＝ティボー＝クレスパン
国際音楽コンクール 2022

【ピアノ部門】

第1位／聴衆賞／評論家賞 大学4年 ピアノ 亀井 聖矢さん
第4位 SD1年 ピアノ 重森 光太郎さん

第17回 グリーク国際ピアノコンクール

優勝 2013年大学卒業 ピアノ 石井 楓子さん

第7回 トビリシ国際ピアノコンクール

第2位（最高位） 修士1年 ピアノ 尼子 裕貴さん

第71回 ミュンヘン国際音楽コンクール

【弦楽四重奏部門】

第2位 クアルテット・インテグラ
2019年大学卒業 ヴィオラ 山本 一輝さん
2019年大学卒業 チェロ 築地 杏里さん
2020年SD退籍 ヴァイオリン 三澤 響果さん
2021年大学卒業 ヴァイオリン 菊野 凛太郎さん

第18回 ハチャトゥリアン 国際コンクール 2022

第2位 高校3年 チェロ 北村 陽さん

第20回 東京音楽コンクール

【ピアノ部門】

第1位／聴衆賞 SD5年 ピアノ 中島 英寿さん

第15回 オルレアン国際ピアノコンクール

第2位 2021年大学卒業 ピアノ 谷口 知聡さん
作曲賞 2022研修生修了 作曲 小倉 美春さん

第39回 現音作曲新人賞

第1位 修士1年 作曲 井上 莉里さん

第76回 ジュネーブ国際音楽コンクール

【ピアノ部門】

第3位 2017年大学卒業 ピアノ 五十嵐 薫子さん

第24回 ショパン国際ピアノコンクール in ASIA
全国大会

【高校生部門】

金賞 高校1年 ピアノ 片岡 琴佑さん

第7回 バルトーク国際ピアノコンクール

【カテゴリー6（23～26才）】

第2位（最高位） 2019年大学卒業 ピアノ 守永 由香さん

第67回 マリア・カナルス国際音楽コンクール

【ピアノ部門】

第3位 大学4年 ピアノ 亀井 聖矢さん

※紙面の都合で一部のみを掲載しています。（入賞時の学年を記載しています）

Our concerts コンサートスケジュール

本学主催・共催などの演奏会が数多く開催されます。その他公演および詳細は、ホームページの「演奏会情報」でご案内していますのでご覧ください。

- 4 月**
- 16 (日) **卒業演奏会 (高校)**
紀尾井ホール
 - 23 (日) **卒業演奏会 (大学)**
紀尾井ホール
 - 28 (金) **声楽コンサート**
桐朋学園宗次ホール
 - 30 (日) **宮崎国際音楽祭**
指揮：野平一郎
宮崎県立芸術劇場
- 5 月**
- 8 (月) / 15 (月) **管楽アンサンブルのタベ**
桐朋学園宗次ホール
 - 24 (水) **第107回 室内楽演奏会**
桐朋学園宗次ホール

稲室 来実さん
桐朋女子高等学校 音楽科 (男女共学) 3年
作曲専門

自作曲が演奏される喜びを感じながら

自作曲を作品展で披露できると知ったときは感動しました。ホールで実際に演奏される機会があるのはとても嬉しいですね。



作曲作品展に
出展!

- 6 月**
- 5 (月) / 6 (火) **ヴィオラスペース**
紀尾井ホール
 - 7 (水) **第108回 室内楽演奏会**
桐朋学園宗次ホール
 - 12 (月) **高校 Student Concert ①**
桐朋学園宗次ホール
 - 14 (水) **高校 Student Concert ②**
桐朋学園宗次ホール
 - 16 (金) **第45回 作曲作品展**
府中の森芸術劇場 ウィーンホール
 - 17 (土) **Symphonic Winds 長野公演**
信州の幸 あんずホール
(千曲市更埴文化会館)
 - 21 (水) **大学 Student Concert ①**
桐朋学園宗次ホール
 - 26 (月) **大学 Student Concert ②**
桐朋学園宗次ホール
 - 28 (水) **第109回 室内楽演奏会**
桐朋学園宗次ホール

- 7 月**
- 8 (土) **オーケストラ演奏会**
調布市グリーンホール 大ホール



佐伯 涼真さん
桐朋学園大学 音楽学部 4年 ピアノ専攻

本番の経験が、飛躍的な成長につながる

コンサートは大きな会場で演奏できる貴重な機会。そのなかで耳を使って音を創り上げる過程は学びになりました。

- 8 月**
- 31 (木) **桐朋ピアノ・コンペティション (本選)**
桐朋学園宗次ホール

- 9 月**
- 23 (土・祝) **佐々木成子賞
受賞記念コンサート**
桐朋学園宗次ホール

- 10 月**
- 18 (水) **第17回
桐朋ピアノ・ガラコンサート**
調布市文化会館たづくり くすのきホール

- 25 (水) **大学 Student Concert ③**
桐朋学園宗次ホール

- 30 (月) **大学 Student Concert ④**
桐朋学園宗次ホール

- 12 月**
- 3 (日) **音楽大学オーケストラ・フェスティバル**
指揮：尾高 忠明 with 洗足学園音楽大学
ミュゼ川崎 シンフォニーホール
 - 9 (土) **ハーブアンサンブルのタベ**
桐朋学園宗次ホール
 - 12 (火) **第42回 パーカッションのタベ**
桐朋学園宗次ホール
 - 15 (金) **チェロアンサンブル**
府中の森芸術劇場 ウィーンホール
 - 22 (金) **第33回 Symphonic Winds 演奏会**
杉並公会堂 大ホール

- 1 月**
- 12 (金) **合唱のタベ**
桐朋学園宗次ホール
 - 17 (水) **弦楽オーケストラ演奏会**
指揮：清水 麗輝
桐朋学園宗次ホール
 - 20 (土) **オーケストラ演奏会**
調布市グリーンホール 大ホール

- 3 月**
- 4 (月) **第18回
桐朋ピアノ・ガラコンサート**
桐朋学園宗次ホール
 - 9 (土) **大学ピアノ専攻卒業演奏会**
浜離宮朝日ホール
 - 30 (土) / 31 (日) **音楽大学オーケストラ
フェスティバル 合同オケ**
指揮：シルヴァン・カンブルラン
東京芸術劇場 コンサートホール、
ミュゼ川崎 シンフォニーホール

オーケストラ
フェスティバル
コンミスとして
出演!



趙 賢真さん
桐朋学園大学 音楽学部 4年
弦楽器専攻 (ヴァイオリン)

舞台上での経験が私の糧になる

著名な指揮者に指導をしていただき、コンミスとしてオーケストラで演奏することができました。

桐朋 木の香りコンサート

音楽教室に通う小中学生から、高校生・大学生・大学院生まで……桐朋で学ぶ学生・生徒が出演するコンサートです。開催予定やプログラムなどはTwitterに随時掲載していますので、ご確認ください。



@toho_kinokaori



©Hikaru.★

仙川キャンパス

〒182-8510
東京都調布市若葉町 1-41-1
Tel.03-3307-4101 (代)

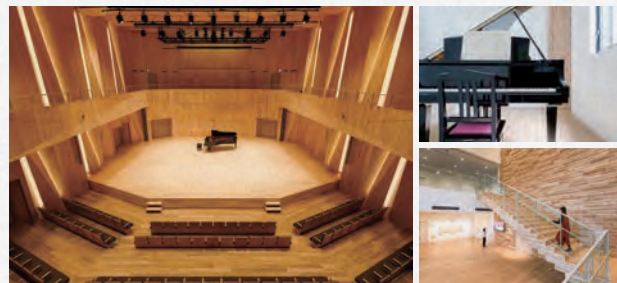
仙川キャンパスは、桐朋学園宗次ホールを併設する校舎を含む2棟の校舎を備えています。どちらも隈 研吾氏デザインの木造校舎で、木ならではの快適な音環境を提供し、桐朋生に愛される学び舎として定着しています。高校生と大学生が学年の垣根を越えて学ぶキャンパスは、様々な楽器の音や人の声が混ざり合い、活気あふれる交流の空間を生み出しています。



- 1 隈 研吾氏によるデザイン
- 2 木のぬくもりを感じられる教室
- 3 憩いの場となる学生ホール

桐朋学園宗次ホール（H館）

仙川キャンパスH館は、講義室、レッスン室、そして専用の音楽ホールである桐朋学園宗次ホールで構成されています。このホールは、最大客席数234席と小ぶりながら、フルオーケストラを収容できる広いステージを備えています。ホールにはCLTと呼ばれる木材が使用され、森の中にいるような空間に柔らかな音が広がります。



アネックス 〒182-8510 東京都調布市若葉町 2-19-47

仙川キャンパスから徒歩約10分の場所に、音響面、デザインともに高い評価を受けている「アネックス」があります。大小様々な広さの15室を有し、主にレッスンで使用されています。

仙川図書館

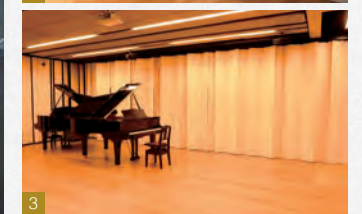
2021年9月、リニューアル・オープンしたばかりの図書館です。広々とした明るいスペースには、桐朋生に欠かせない楽譜や図書が約23,500点並べられ、専門知識を備えた図書館員が桐朋生の図書館での学びをサポートします。



調布キャンパス

〒182-0021
東京都調布市調布ヶ丘 1-10-1
Tel.042-444-7055 (代)

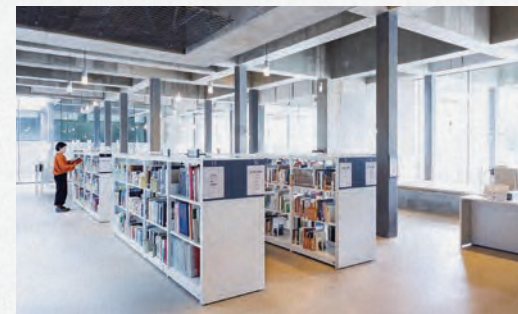
調布キャンパスは、主に大学院生のための研究施設として、高校生・大学生の活動拠点である仙川キャンパスと対をなす学び舎になっています。地下部分には図書館施設が入り、1階には読書をしながら飲食できるスペースが設けられています。動的な仙川キャンパスに対し、静的でスタティックな調布キャンパスは、院生たちが落ち着いて研究できる環境を提供します。



- 1 日建設計・山梨 知彦氏によるデザイン
- 2 2階廊下には窓の大きな休憩スペース
- 3 響きを良くする木板が設置された教室

調布図書館

2022年3月、大学院生のための図書館に生まれ変わりました。1階部分は学生ホールに隣接、食事や談話をしながら図書や雑誌を読むことのできるオープンなスペースに、地下部分は約60,000点の楽譜や図書を所蔵し、調査や研究に集中できるスペースになっています。



学生会館

調布市調布ヶ丘
(京王線調布駅より徒歩約15分)

遠方に住む女子生徒・学生のための居住施設です。各住戸は防音設備付きの洋室となっていて、練習や勉強に必要な諸条件を確保する他、浴室・トイレ・ミニキッチン・エアコン・インターネットコネクションなどを各室に備え、管理人が常駐しています。



仙川キャンパス・調布キャンパス 保健室・学生相談室

桐朋生の皆さんが安心して充実した学校生活を送れるよう、保健スタッフもサポートします。保健室には看護師が常駐し救急対応と健康相談を行い、学生相談室では学校生活に関する様々な相談に応じます。病気や障がいのために特別な配慮を必要とする方も、こちらでご相談ください。

Next stage

【桐朋生の進路・進学】

音楽を究め続けるあなたの人生には、これからも様々な選択肢があります。桐朋学園では、留学をはじめ、進路や進学について学生一人ひとりに寄り添いサポートしています。

高校卒業後の進路 …… 45	大学院への進学 …… 48
大学卒業後の進路 …… 46	特待生・奨学金制度 …… 49
留学について …… 47	入試情報 …… 50

Next stage

高校卒業後の進路

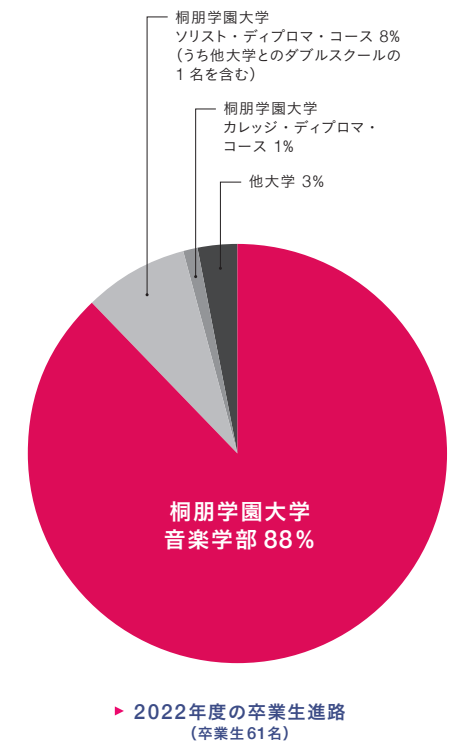
桐朋学園大学への進学その他、 実技に特化したコースへの道も

桐朋学園では、高校から大学まで一貫した音楽教育を実践しています。大多数の生徒が指定校推薦制度で桐朋学園大学音楽学部への進学を希望し、ソリスト・ディプロマ・コースやカレッジ・ディプロマ・コースなどの実技に特化したコースに進学する生徒もいます。他にも、留学や他大学への進学を選択する生徒もいます。

桐朋学園大学音楽学部への推薦基準

桐朋女子高等学校音楽科を卒業見込みの者で、桐朋女子高等学校校長が推薦し、次の要件を満たす者。

- ・ 高校在学中の授業および実技レッスン（副科ピアノ、理論科ピアノなども含む）への出席が良好で、常日頃より勉学の意欲を持つ者。
- ・ 素行、生活態度が桐朋学園大学音楽学部推薦するにふさわしいこと。
- ・ 卒業に必要な科目の単位をすべて修得する見込みであり、次の科目については、高校3年次に一定以上の成績を修めていること。
【専門実技／聴音・ソルフェージュ／和声法／音楽史】



Other course

桐朋独自の多様な学び場

▶ ソリスト・ディプロマ

受験資格：中学校卒業以上の者

ピアノ、ヴァイオリン、チェロ、フルートにおいて、ソリストとしての将来性を有すると認められた者を対象に、実技の重点的教育を行うことを目的としたコースです。

▶ オープンカレッジ「指揮コース」

受験資格：高等学校卒業以上の者

桐朋学園大学の指導陣による「指揮実技」のレッスンを年間24回受講することができるコースです。

▶ 研究生

受験資格：大学音楽学部卒業以上の者

音楽大学の卒業生で、さらに実技の研究を深めたい者のために設置されています。

設置専攻 管楽器／打楽器／ハープ／古楽器／指揮／作曲／音楽学

▶ カレッジ・ディプロマ

受験資格：高等学校卒業以上の者

実技を中心とした自由で高度な専門教育を行うコースです。

▶ 科目等履修生

受験資格：高等学校卒業以上の者

学科系の講座の単位修得を目的として受講するコースです。実技は受講できません。

※詳細は本学ホームページ
(<https://www.tohomusic.ac.jp/>)
をご覧ください。

大学卒業後の進路

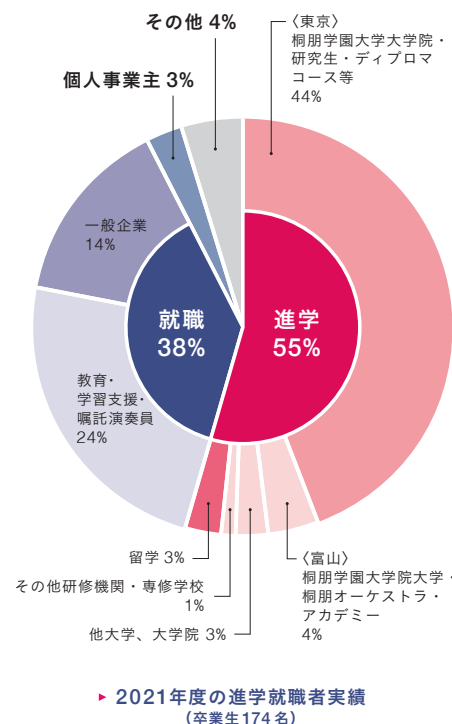
さらなる研鑽を積むために
多くの学生が進学を選択

5割近い学生が桐朋学園の大学院や研究科、桐朋オーケストラ・アカデミーへ進学する他、新たな活動拠点を求めて海外留学する学生も多数います。また、桐朋で学んだ専門性を生かし、教育・学習支援機関や音楽関連企業などへ就職する学生もいます。

桐朋オーケストラ・アカデミー

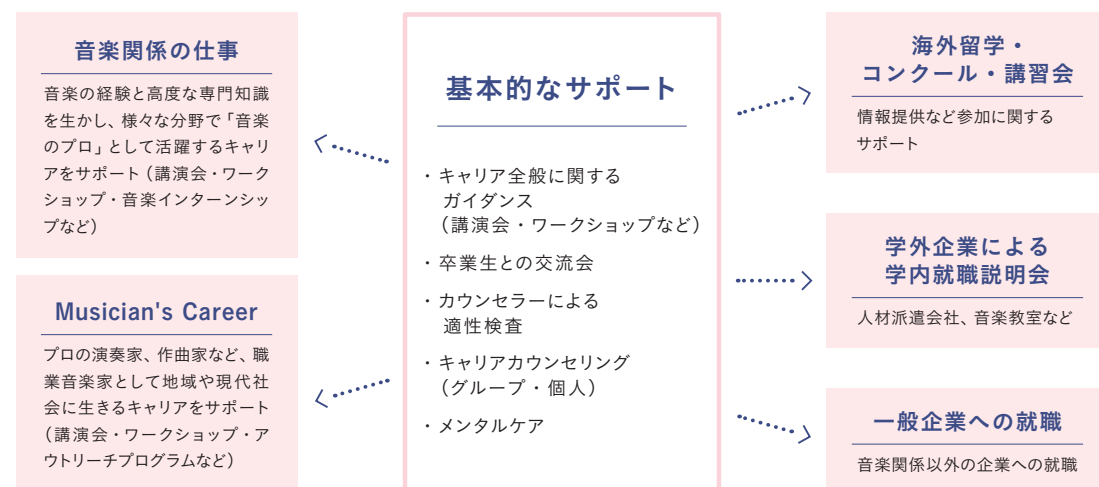
プロのオーケストラ・プレイヤーの育成を目的とした研究機関で、弦・管・打楽器奏者を主な対象としています。富山市との連携による演奏会や、大学院大学との共同企画、海外留学生との交流など、多彩な活動を行っています。

富山キャンパス
〒930-0138 富山県富山市呉羽町1884-17



キャリアサポート

選択肢を絞るのではなく、可能性を広げる——それが、桐朋のキャリア支援の理念です。
幅広い視野を身につけ、自分自身とじっくり向き合い、世界でたったひとつの、あなたならではの人生を開拓してください。
キャリア支援センターでは、その模索と実現を後押しすべく、それぞれの未来に目を向けたアドバイスを行っています。



留学について

個々の主体性を尊重する、
目的に合わせた留学支援

音楽家を志したときから、留学を視野に入れている人も多いのではないのでしょうか。桐朋学園では一人ひとりの目的に合った留学が計画できるように有益な情報を提供しています。高校から大学院までの間でいつ留学するかはその人次第です。それぞれのタイミングで海外へ向かう桐朋生をサポートします。

留学するために

在学中に1～2週間の短期留学で情報収集をしたり、セミナーや音楽祭で出会った音楽家へアプローチしたりと、留学先や師事する先生の選び方は様々です。本学では、海外を拠点に活躍する卒業生の人脈や、留学経験を持つ講師や身近な先輩からも情報を得ることができます。また、サンタ・チェーリア音楽院、ケレン音楽大学、デトモルト音楽大学との短期交換留学制度もあります。

留学先（2020～2022年度実績）※

ヨーク大学、リヨン国立高等音楽・舞踊学校、デトモルト音楽大学、パリ国立高等音楽院第二課程、エコールノルマル音楽院、スコラ・カントルム音楽院、ニュルンベルク音楽大学、バンウェスト・カレッジ、マーストリヒト音楽院、ウィーン市立音楽芸術大学、ベルリン芸術大学、他（留学準備中含む）

先生選び

先生からの推薦や、卒業生や先輩からの紹介、特別レッスンの招聘教授など、師事したい先生を選びます。

情報収集

パスポートやビザの準備をはじめ、ホームステイ先・寮・アパートなどの生活拠点について情報を収集します。

コンタクト

師事したい先生や学校への推薦状の用意、願書の添削などのサポートを受けながら留学先にコンタクトを取ります。

留学

留学中の先輩の声



留学先：
パリ国立高等音楽院（フランス）
谷口 知聡さん
桐朋学園大学 音楽学部
ピアノ専攻
2021年卒業
フロラン・ボファール氏に師事
滞在期間：2021年9月～現在



留学先：
ベルリン芸術大学（ドイツ）
古澤 香理さん
桐朋女子高等学校 音楽科（男女共学）
弦楽器専門（ヴァイオリン）
2017年卒業
マーク・ゴトーニ氏に師事
滞在期間：2017年10月～現在

国際都市で世界にふれる

現代音楽作品の演奏に携わりたいという強い希望があり、この分野での教育環境が整った学校を留学先を選びました。桐朋で高校からフランス語を学んだことが役立っていますが、世界中から芸術家が集まるこの場所では、ときに彼らの母国での悲惨な体験を知る機会もあり、語学だけでなく世界の問題について学ぶ必要性を感じます。

“教えない”先生から学ぶ

ゴトーニ先生は「教えずに教える先生」という感じですが、毎回大切な何かを教わっていることは確かです。生徒が自ら成長することを促してくれる先生で、留学してから音楽に対する見方が変わりました。ドイツ語での授業は大変ですが、ソルフェージュや楽典などで何ひとつ苦労しなかったのは、桐朋で鍛えられたおかげです。

大学院への進学

より深く、洗練された 音楽知識と技能の習得を目指して

2017年4月、日本の音楽教育発展の先導役を担う教育・研究機関として仙川・調布両キャンパスに大学院を開設。実践的なカリキュラムを通じて、広く音楽界で活躍できる演奏家の養成、深い音楽的知識や教養を有する教育者や研究者の養成を目指します。



修士課程

標準修業年限：2年

養成しようとする人材

- ・確かな実践能力や豊かな知識をもって活躍できる演奏家

カリキュラム・ポリシー

大学院音楽研究科は、音楽実践に不可欠な高度な能力を習得し、自立した音楽活動を行うにあたって必要な能力を養うことを目的とする。その目的のために、各コースの特質に適合した教育課程を編成している。修士課程は2年以上の在学期間に、コースごとに開設される実技あるいは実習・演習などを履修し、また、学術的研究を支える関連科目を所定の範囲で履修しなければならない。学位審査は、修了演奏／作品および研究レポート、または修士論文によって行われ、合格者は修士（音楽）の学位を授与される。

ピアノコース ソロ／歌曲伴奏／コレペティツィオン

弦楽器コース ヴァイオリン／ヴィオラ／チェロ／コントラバス

声楽コース オペラ／歌曲

作曲コース

音楽学コース

博士後期課程

標準修業年限：3年

養成しようとする人材

- ・極めて高度な知識と教養及び卓越した技能を備え、音楽に関する学術的な研究を自立的に行うことができ、将来、主に高等教育機関において教育者、研究者として活躍できる人材
- ・豊かな学識に裏打ちされた実践能力によって、世界の音楽界で中枢的指導力を発揮できる人材

カリキュラム・ポリシー

専門領域における極めて高度な知識、教養、見識及び卓越した技能をもって研究及び演奏を行う能力を獲得する。修了後には高等教育機関で教育や研究に従事するために必要な問題発見能力、課題解決能力、他の専門領域や他者の知見を理解しクリティカルに検証する能力を習得する。また、教育研究を持続的に推進する人材として、社会や文化に対する広い視野と高い見識を培う。

ピアノ・弦楽器・声楽・作曲・音楽学研究領域

ピアノ・弦楽器・声楽・作曲・音楽学の5つの研究領域において、各自専門の学術研究・実技研究を実施。計画的に研究を進め、積極的に議論や発表を行うことで、音楽研究に必要な方法論や技術を習得。各自の研究成果は研究演奏や博士論文にて発表。修了までに学術研究・実技研究の一体化を目指す。

桐朋学園大学院大学 （富山市）

【音楽研究科 演奏研究専攻（修士課程）】

設置専攻 ピアノ／ヴァイオリン／ヴィオラ／チェロ

アンサンブルを重視した実技研究を特色としています。

特待生制度

特待生入学試験合格者、入学試験、または、所定の学内試験で専攻実技の成績が極めて優秀であると認められた学生に、「入学金」「運営維持費」「授業料」などの全額または一部免除をもって、これを顕彰する特待生制度を設けています。

2023 年度実績

桐朋女子高等学校	7 名	・運営維持費30万円 免除3名 ・運営維持費一部20万円 免除4名
桐朋学園大学	16 名	・施設設備費一部／運営維持費50万円 免除1名 ・施設設備費一部／運営維持費40万円 免除1名 ・入学金一部30万円 免除1名 ・入学金一部20万円 免除1名 ・入学金一部15万円 免除4名 ・運営維持費30万円 免除3名 ・運営維持費一部20万円 免除5名
桐朋学園大学院大学	6 名	・授業料／施設設備費／運営維持費145万円 免除1名 ・入学金一部30万円 免除1名 ・授業料一部50万円 免除1名 ・授業料一部30万円 免除2名 ・授業料一部20万円 免除1名
ソリスト・ ディプロマ・コース	7 名	・登録料／受講料／施設設備費145万円 免除1名 ・受講料／施設設備費100万円 免除1名 ・登録料一部30万円 免除2名 ・受講料一部80万円 免除1名 ・受講料一部50万円 免除1名 ・受講料一部10万円 免除1名
研究生	2 名	・登録料一部10万円 免除2名

奨学金制度

成績優秀者または経済的な理由により就学が困難な学生を対象に各種の奨学金制度を設け、多くの学生の勉学の支えとなっています。

桐朋独自の奨学金制度 ※すべて給付奨学金です。

01 桐朋学園音楽部門奨学金

成績が良好で心身ともに健全であり、経済的理由で就学が困難な学生・生徒に対し、1年毎に選考を行い給付されます。

2022年度 高校：授業料の4割 6名／3割 2名／2割 2名／1割 1名
大学：授業料の4割 9名／3割 15名／2割 25名／1割 25名
大学院：授業料の3割 3名／2割 2名／1割 4名
ソリスト・ディプロマ：該当者なし

02 桐朋学園音楽部門特別奨学金

成績の特に秀でた学生・生徒に対し給付されます。

2015年度 1名 50万円

03 桐朋学園音楽部門芸術教育整備・ 拡充資金及び奨学基金奨学生

当該年度の入学試験で、秀抜なる成績を得た学生・生徒に給付されます。

2019年度 1名 授業料一部（30万円）免除（大学院生）

04 宗次徳二桐朋学園大学 大学院特待奨学金

宗次徳二氏の寄附により設立され、成績が優秀でありながら、経済的理由のため就学が困難な本学の大学院生に給付されます。

2022年度 5名 各120万円

05 桐朋学園音楽部門同窓会奨学金

桐朋学園音楽部門同窓会から、向学心があり心身ともに健全で、経済的理由によって就学が困難な大学2年生を対象に給付されます。

2022年度 5名 各10万円

06 チェロアンサンブル・サイトウ奨学金

当該年度の入学試験で、秀抜なる評価を得たチェロ専攻の学部学生に給付されます。

2023年度 4名 各10万円
（学部生2名、ソリスト・ディプロマ生2名）

07 桐朋学園音楽部門留学支援奨学金 「江崎スカラシップ」

江崎正道氏の寄附による留学支援奨学金。大学生以上のピアノ専攻生が対象。在学中に海外高等教育機関へ留学をする者に一人当たり500万円が支給されます（年間2名まで）。

2022年度 1名 500万円

【その他の奨学金】※給付、貸与など、様々な奨学金があります。

- 日本学生支援機構奨学金
- 各都道府県・地方公共団体奨学金
- 企業、交通遺児育英会等の奨学金

入試情報

本学は、以下3つをアドミッション・ポリシーとして、入学者に求める学生像の方針を定めています。

- ・音楽表現に対する能力や意欲を有し、自己の目標を持っている者
- ・音楽文化に関する知識と技量を習得し、社会の発展に貢献する意思のある者
- ・音楽文化の領域を学ぶために必要な理解力・構想力を持っている者

▶ 夏期・冬期講習

受験準備のための講習会を、夏期と冬期に開催しています。入学試験に準じた模擬試験や、模擬試験をふまえた授業・レッスンを行いますので、ぜひ活用してください。

夏期講習

7/28～7/31

受講申し込み期間：6/13～7/1

講習科目：a. 専攻実技（模擬試験、個人レッスン）
 b. 新曲視唱・聴音（模擬試験、授業、相談） c. 楽典（模擬試験、授業、相談） d. 和声【作曲・指揮のみ】（授業） e. 副科ピアノ（演奏と講評） f. 作曲理論ピアノ【作曲・指揮のみ】（模擬試験、個人レッスン）

12/24～12/25

受講申し込み期間：11/23～12/5

講習科目：a. 専攻実技レッスン b. 新曲視唱・聴音（模擬試験、授業） c. 楽典（模擬試験、授業） d. 和声・作曲授業【作曲・指揮のみ】 e. 副科ピアノ（演奏と講評） f. 作曲理論ピアノ【作曲・指揮のみ】（演奏と講評）

冬期講習

募集要項		2023			2024		
		10 月	11 月	12月	1 月	2 月	3 月
高校	▶ 桐朋女子高等学校 音楽科（男女共学） 推薦第一種入学試験 募集専門：管楽器／打楽器／ハープ／声楽／作曲 推薦第二種入学試験 ※桐朋女子中、桐朋中出身者対象 募集専門：ピアノ／弦楽器／管楽器／打楽器／ハープ／声楽／作曲 一般入学試験 募集専門：ピアノ／弦楽器／管楽器／打楽器／ハープ／声楽／作曲		願書受付 11/1～6 ※郵送必着			願書受付 1/16 ※郵送必着 推薦 (第一、二種) 入学試験 試験 1/22 合格発表 1/22 願書受付 1/23～2/3 ※郵送必着 一般 入学試験 試験 2/12～14 合格発表 2/16	
	▶ 桐朋学園大学 音楽学部 総合型選抜(特待生) 募集専攻：ピアノ／弦楽器 学校推薦型選抜(一般) 募集専攻：弦楽器cb／管楽器／打楽器／ハープ／古楽器／声楽／作曲／音楽学 一般選抜(一般・編入) 募集専攻：ピアノ／弦楽器／管楽器／打楽器／ハープ／古楽器／声楽／指揮／作曲／音楽学 飛び入学試験 ※高校2年次修了から大学へ。 募集専攻：ピアノ／弦楽器		学校推薦型選抜 (一般) 試験 11/26 合格発表 12/5 願書受付 10/14～18 ※郵送必着 総合型選抜(特待生)Ⅰ期〈AO方式〉 一次試験(書類審査) 二次試験 11/4 合格発表 11/8 願書受付 11/13～24 ※郵送必着 総合型選抜(特待生)Ⅱ期〈AO方式〉 ※「飛び入学試験」が同時期にあります 一次試験(書類審査) 二次試験 12/18 ピアノ、12/19弦楽器 合格発表 12/20		願書受付 1/4～16 ※郵送必着 一般選抜(一般・編入) 試験 2/8～12 合格発表 2/16		
大学院	▶ 桐朋学園大学大学院 音楽研究科 (修士課程・博士後期課程) 募集：ピアノ／弦楽器／声楽／作曲／音楽学	修士課程 試験 11/4～5 合格発表 11/8			願書受付 1/4～16 ※郵送必着 博士後期課程 試験 2/5～6 合格発表 2/7		
ディプロマ	▶ ソリスト・ディプロマ・コース ソリストとして将来性を有すると認められた者を対象に高度な実技教育を目的としたコースです。 募集専攻：ピアノ／ヴァイオリン／チェロ／フルート 受験資格：中学校卒業以上			願書受付 11/13～24 ※郵送必着		願書受付 2/7～21 ※郵送必着	
	▶ カレッジ・ディプロマ・コース 実技を中心とした教育を受けるコースとして設置され、幅広い年齢層の学生が在籍しています。 募集専攻：ピアノ／弦楽器／管楽器／打楽器／ハープ／古楽器／声楽／指揮／作曲／音楽学 受験資格：高等学校卒業以上		ソリスト・ ディプロマ・コース 試験 12/18 ピアノ、12/19ピアノ以外 合格発表 12/20		カレッジ・ ディプロマ・ コース 試験 2/29～3/1 合格発表 3/7		

Access Map

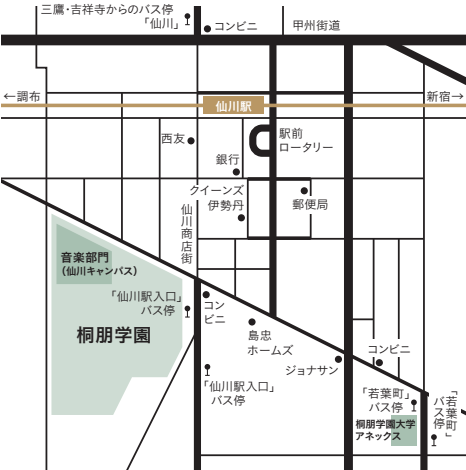
アクセスマップ

仙川キャンパス

〒182-8510 東京都調布市若葉町1-41-1
TEL.03-3307-4101 FAX.03-3307-4354

- ・京王線「仙川駅」より徒歩約5分
- ・小田急線「成城学園前駅」よりバス約15分
- ・JR中央線「吉祥寺駅」よりバス約25分
- ・JR中央線「三鷹駅」よりバス約30分

▶ 仙川駅からのご案内

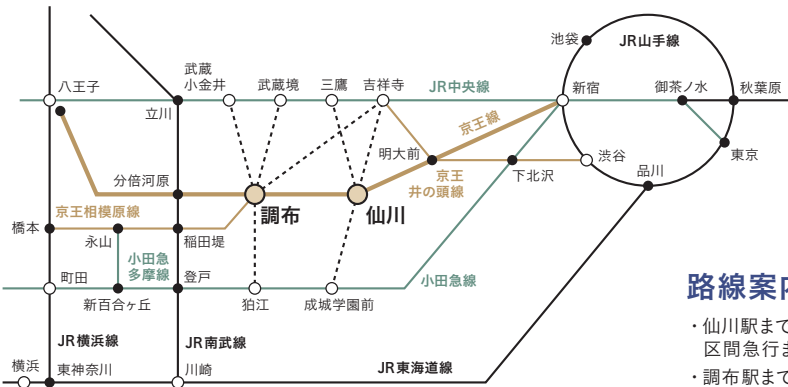
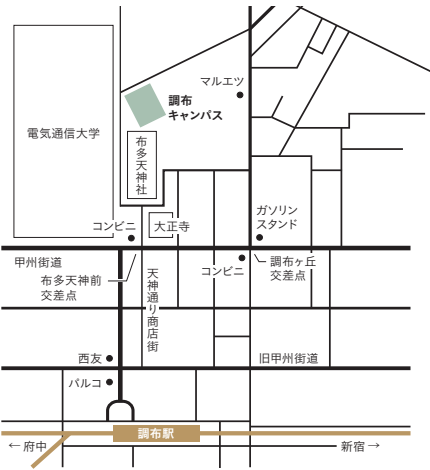


調布キャンパス

〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘1-10-1
TEL.042-444-7055 FAX.042-444-7056

- ・京王線「調布駅」より徒歩約10分

▶ 調布駅からのご案内



路線案内

- ・仙川駅まで京王線「新宿駅」より
区間急行または快速で約18分
- ・調布駅まで京王線「新宿駅」より特急で約18分

本学ホームページはこちら ▶ <https://www.tohomusic.ac.jp/>

